新日軽

施工説明書番号 ME-1912

改－2

グランド富岳 標準門柱･デラックス門柱 施工説明書

●この度は、当社製品をご採用いただき誠にありがとうございます。　商品を正しく安全に組立・施工していただくために、この施工説明書をよくお読みの上、作業を行ってください。
●本説明書に示した注意事項は、商品の性能・機能および強度や安全性を確保する上での重要な内容です。施工にあたっては必ずお守りください。
●施工は専門業者が行ってください。専門知識のない方が施工されますと不具合発生の原因となることがあります。
●電気工事は電気工事士の資格が必要です。電気工事が必要な場合は、必ず電気工事店へ依頼してください。
●この説明書は施工後必ず施主様へお渡しください。

施工上の注意事項

施工にあたっては次の点をご注意ください。

●モルタル用に海砂を使用されますと、多量に塩分が含まれているため、腐食の原因になりますのでご使用を避けていただくか、十分水洗いしたものをご使用ください。
●モルタルやコンクリートの急結剤は腐食の発生や促進作用がありますのでその使用を避けていただくか、塩化カルシウムや塩素系の化合物・珪酸ナトリウム等の入っていないものをご使用ください。
●アルミ商品と銅板やラス等の異種金属が接触しないようにしてください。接触する場合には、ビニールテープ等を貼るか塗料等で絶縁処理をしてください。
●腐食の恐れのある接着剤や化学薬品を使用する場合には、商品と接触しないようにするか接触する部分を完全に養生してください。
●埋め込み柱内部にモルタルやコンクリートや水などが入らないようにしてください。柱内部の異常腐食や柱の凍結破損の原因になります。
●モルタルやコンクリートの抽出液は強アルカリ性で、しみやむら等の外観不良や腐食の原因になりますので、工事中に商品に付着しないようご注意ください。
●施工時に商品の表面に付着したモルタルやコンクリート等は速やかに清掃してください。また、アルミ表面にキズをつけますと腐食しやすくなりますので取扱いには十分注意してください。
●輸入木材には塩素イオン等の腐食成分が多く含まれているものがありますので、その使用を避けていただくか、アルミと接触する部分には木材に塗装するようにしてください。
●基礎施工は、地下埋設物（給水配管等）に影響を及ぼさないように柱設置位置を決めてください。また、寒冷地はその地域にあった基礎工事を行ってください。
●地盤が軟弱な場合は、柱の埋め込み深さ、フーチングの大きさを考慮してください。
●電装品の結線は､必ず電気工事店様（有資格者）が行ってください。
●配線はあらかじめ説明書に示す必要寸法分立ち上げておいてください。
●錠の改造・分解はしないでください。
●錠内部へは異物（木屑･金属屑など）が入らないようにしてください。
●２線式電気錠は、ドアホン子機・カメラ付きドアホン子機などと同一線（多芯ケーブル）を使用しないでください。また、AC100V 配線とは別配管で配線してください。
●オートクローザは必ず適正な閉まり強さ･速度に調整してください。
●必ず開き止めバンパーを取付けてください。
●養生期間は十分（４日～１週間）にとり、養生期間中は重いものをのせたり、振動させたりしないように指示してください。
●改造・変更をしないでください。
●施工完了後は扉の開閉チェックを行い、不具合がないか確認してください。
●隙間カバー、ベースプレートの取付けは、各梱包内の施工説明書を参照してください。

この説明書に示した注意事項は、安全に関する重要な内容を示しています。人身事故や財産への損害を未然に防止するため、次のような絵表示をしています。

絵表示	意味	絵表示	ご使用上の注意とお願い
⚠注意	この表示を無視して誤った取扱いをすると使用者等が負傷する危険や物的損害の発生が予想されることを表しています。	❗	「必ず行っていただくこと」を示しています。

⚠注意

●通常使用しない場合は、必ず施錠し、落し錠を落してください。（※突風などで扉が開き、人や壁に当たるなど事故や破損の原因となります。）
●落し受けツボに土・砂・ゴミなどがたまった場合は、必ず取除いてください。（※落し錠のかかりが悪くなると、突風で扉が開き、人や壁に当たると事故や破損の原因になります。）
●開閉操作の際は、周囲に人や物がいないことを必ず確認してください。また､開閉操作はゆっくり行ってください。（※扉に人がはさまれるなど事故の原因となります。特にお子様には注意してください。また、急激な操作は思わぬ事故につながります。）
●開閉時に、手足や衣服などを挟まないように注意してください。
●扉に物を載せないでください。
●扉を揺すったり、乗ったり、寄りかかったりしないでください。（※扉の転落・脱落による事故の原因となります。）
●電気錠タイプの場合は、投げたり落としたりハンマーによる衝撃などを加えないようにしてください。
●シークレットスイッチのカバーを開閉するときに、手や指がはさまれないように注意してください。
●年に一回、ネジやボルトの緩みがないか確認してください。

「使用上の注意事項」については、別途梱包されている「グランド富岳」取扱説明書 [MET-1052] を参照してください。

この施工説明書は「右勝手・内開き」のイラストで説明しています。

もくじ

もくじ 2
梱包明細 3
各部の名称 4
納まり図 7
配線図 10
施工前の確認 14
1．ヒンジの取付け 15
1－1標準門柱の場合 15
1－2デラックス門柱の場合 16
2．門柱の埋め込み 18
2－1標準門柱の場合 18
2－2デラックス門柱の場合 19
3．門扉の吊り込み 20
3－1門扉の吊り込み（標準門柱の場合） 20
3－2門扉の吊り込み（デラックス門柱の場合） 21
3－3ヒンジの調整 22
4．オートクローザの調整（電気錠タイプ） 23
4－1調整前の確認 23
4－2スプリング調整窓の調整 24
4－3速度調整窓の調整 25
4－4トラブルQ＆A 25
5．結線ボックスの取付け（電気錠タイプ） 26
5－1結線ボックスの取付け（標準門柱の場合） 26
5－2結線ボックスの取付け（デラックス門柱の場合） 27
5－3通電金具の取付け 28
6．錠の取付け 29
6－1台座の取付け（※B型の場合） 30
6－2錠の取付け 29
6－3戸当り部材の取付け
（※デラックス門柱・通用門付両開きの場合） 30
7．戸当り・召合縦框キャップの取付け 31
7－1門扉への取付け 31
7－2門柱への取付け
（※デラックス門柱・通用門付両開きの場合） 32
8．電装品の取付け（電気錠タイプ） 33
8－1門内解錠スイッチの取付け 33
8－2シークレットスイッチの取付け 33
9．門柱部品の取付け 34
9－1ヒンジカバー・門柱キャップの取付け
（※標準門柱・標準錠タイプの場合） 34
9－2門柱キャップの取付け（※デラックス門柱の場合） 35
9－3溝ふさぎ材の取付け（※デラックス門柱の場合） 36
10. 開き止めバンパーの取付け 37
11. 落し受けツボの埋め込み 38
12. 落し錠の動作確認 39
施工工事店様、販売店様へのお願い 40

「5. 結線ボックスの取付け」「8. 電装品の取付け」は電気工事店様（有資格者）が行ってください。

梱包明細

●施工前に、部材数量および部品数量を確認してください。また、品質に支障のある損傷が無いか確認してください。
●説明書に記載している部材・部品 (ビス含) 以外は使用しないでください。

梱包名称				梱包内容　　表内の（　）は個数を表しています。
門扉	標準扉	施錠扉	A 型・C 型	門扉（1）・戸当り（1）・召合縦框キャップ（上・下各 1） 戸当りビスセット（1）[M4 × 16 トラス小ネジ（2）・φ 4 × 14 トラスタッピン 3 種（10）]
			B 型	門扉（1）・戸当り（1） 召合縦框キャップ（上・下各 1）・シリンダー台座（1） 戸当りビスセット（1）[M4 × 16 トラス小ネジ（2）・φ 4 × 14 トラスタッピン 3 種（10）]
		受扉	A・B・C 型共通	門扉（1）・戸当り（1）・召合縦框キャップ（上・下各 1） 戸当りビスセット（1）[M4 × 16 トラス小ネジ（2）・φ 4 × 14 トラスタッピン 3 種（10）]
	電気錠扉	施錠扉	A 型・C 型	門扉（1）・戸当り（1） 召合縦框キャップ（上・下各 1） 戸当りビスセット（1）[M4 × 16 トラス小ネジ（2）・φ 4 × 14 トラスタッピン 3 種（10）] オートクローザ用部品セット（1）[スプリングセット棒（2）・セットピン（1） M3 × 50 ナベ小ネジ（1）・調整窓カバー（1）・φ 15 穴ふさぎ材（1）]
			B 型	門扉（1）・戸当り（1） 召合縦框キャップ（上・下各 1） 戸当りビスセット（1）[M4 × 16 トラス小ネジ（2）・φ 4 × 14 トラスタッピン 3 種（10）] シリンダー台座（1）・オートクローザ用部品セット（1）[スプリングセット棒（2）・セットピン（1） M3 × 50 ナベ小ネジ（1）・調整窓カバー（1）・φ 15 穴ふさぎ材（1）]
		受扉	A・B・C 型共通	門扉（1）・戸当り（1）・召合縦框キャップ（上・下各 1） 戸当りビスセット（1）[M4 × 16 トラス小ネジ（2）・φ 4 × 14 トラスタッピン 3 種（10）]
門柱	標準門柱（標準錠・電気錠）		吊元門柱	吊元門柱（1）・ヒンジカバー（1）・門柱キャップ A（1） ヒンジセット（1）[ヒンジ（上）（1）・ヒンジピン（1）・ヒンジ（下）（1）・六角 M10 × 45 セムスボルト（6） 調整ライナー（8）・ヒンジ上部隙間ふさぎ材（1）・ヒンジ下部隙間ふさぎ材（1）] ヒンジカバービスセット（1）[φ 4 × 13 セルフドリリングビス（6）・φ 4 × 12 トラスタッピン 3 種（3）] 施工説明書 [ME-1912]（1）※1・取扱説明書 [MET-1052]（1）※1
			戸当り門柱	戸当り門柱（1）・施工説明書 [ME-1912]（1）※1・取扱説明書 [MET-1052]（1）※1
	デラックス門柱（標準錠・電気錠）		吊元門柱	吊元門柱（1） ヒンジセット（1）[ヒンジ（上）（1）・ヒンジピン（1）・ヒンジ（下）（1）・六角 M10 × 45 セムスボルト（6） 調整ライナー（8）・ヒンジ上部隙間ふさぎ材（1）・ヒンジ下部隙間ふさぎ材（1）] 門柱キャップ B（1）・φ 4 × 16 ナベタッピン 3 種（4）・溝ふさぎ材（L ＝ 120）（1） 施工説明書 [ME-1912]（1）※1・取扱説明書 [MET-1052]（1）※1
			中門柱	中門柱（1） ヒンジセット（1）[ヒンジ（上）（1）・ヒンジピン（1）・ヒンジ（下）（1）・M10 × 45 セムスボルト（6） 調整ライナー（8）・ヒンジ上部隙間ふさぎ材（1）・ヒンジ下部隙間ふさぎ材（1）] 門柱キャップ B（1）・φ 4 × 16 ナベタッピン 3 種（4）・溝ふさぎ材（L ＝ 120）（1）
戸当り部材				戸当り部材（1）・戸当り（1）・召合縦框キャップ（上・下各 1） 戸当りビスセット（1）[M4 × 16 トラス小ネジ（2）・φ 4 × 14 トラスタッピン 3 種（10）] 戸当り部材ビスセット（1）[φ 4 × 16 トラスタッピン 3 種（8）]
落し受けツボ				落し受けツボ（1）

※ 1：右柱にのみ梱包されています。

各部の名称

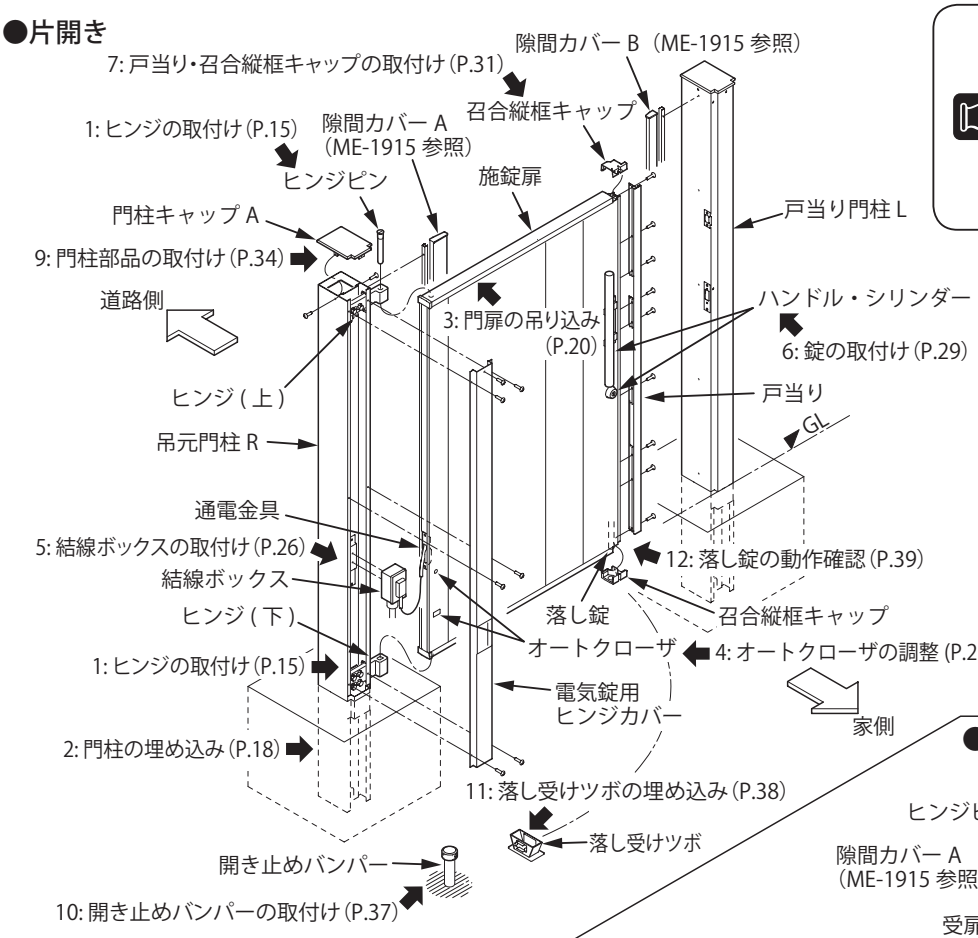
●組立施工および調整の説明項目を示しています。施工作業前に確認してください。
※（ ）内は説明ページを示しています。

標準門柱

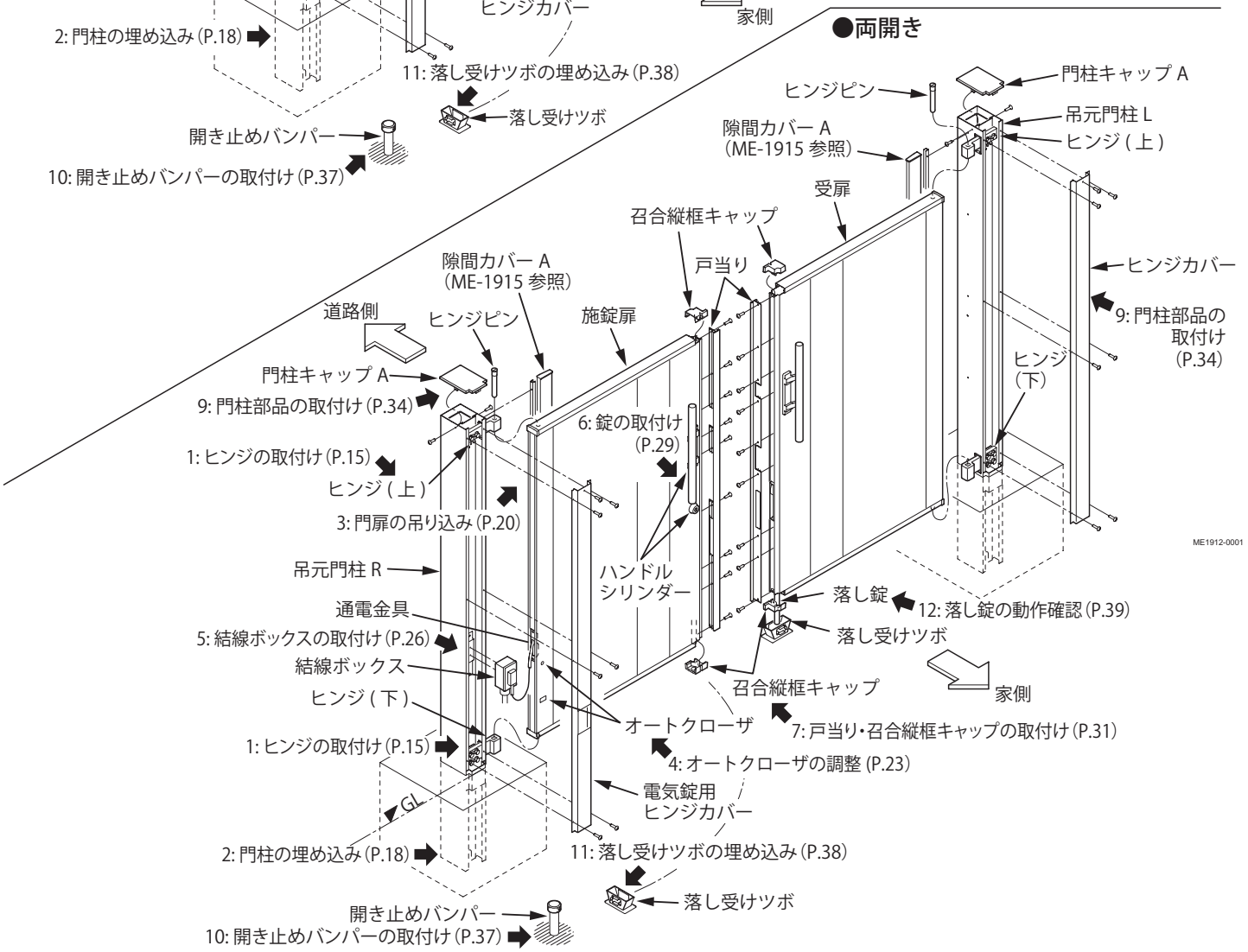
※本図は、電気錠タイプ・右勝手を示しています。
※本図は主な部品の名称を示すものであり、全ての部品および取付個数を示すものではありません。

●隙間カバーについては、隙間カバーの施工説明書 [ME-1915] を参照してください。
●錠の取付けについては、PK 型錠（標準錠）・EL 型錠（電気錠）の施工説明書 [ME-1920] を合わせて参照してください。

●片開き



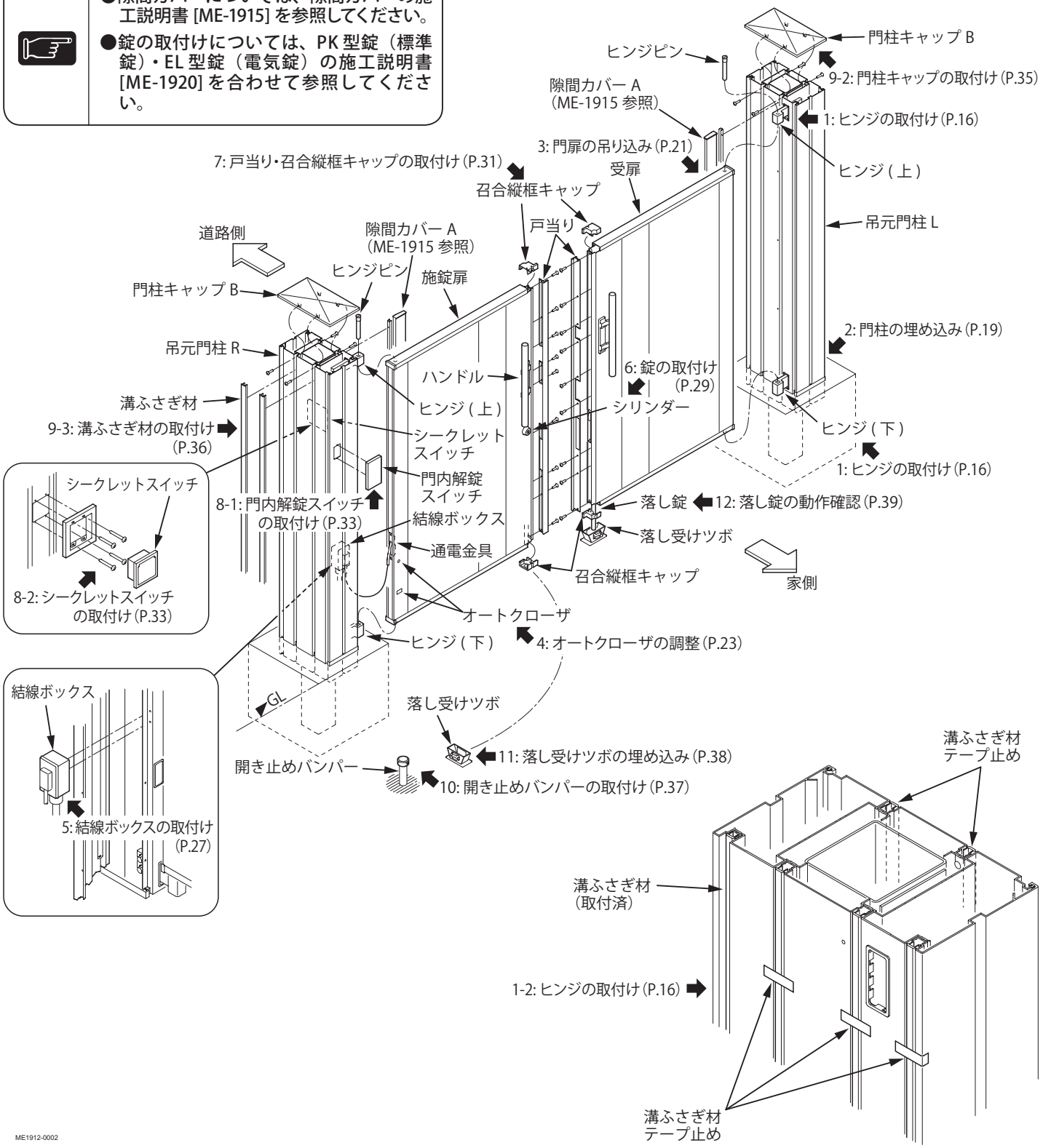
●両開き



デラックス門柱・両開き

※本図は、電気錠タイプ・右勝手を示しています。
※本図は主な部品の名称を示すものであり、全ての部品および取付個数を示すものではありません。

●隙間カバーについては、隙間カバーの施工説明書 [ME-1915] を参照してください。
●錠の取付けについては、PK 型錠（標準錠）・EL 型錠（電気錠）の施工説明書 [ME-1920] を合わせて参照してください。



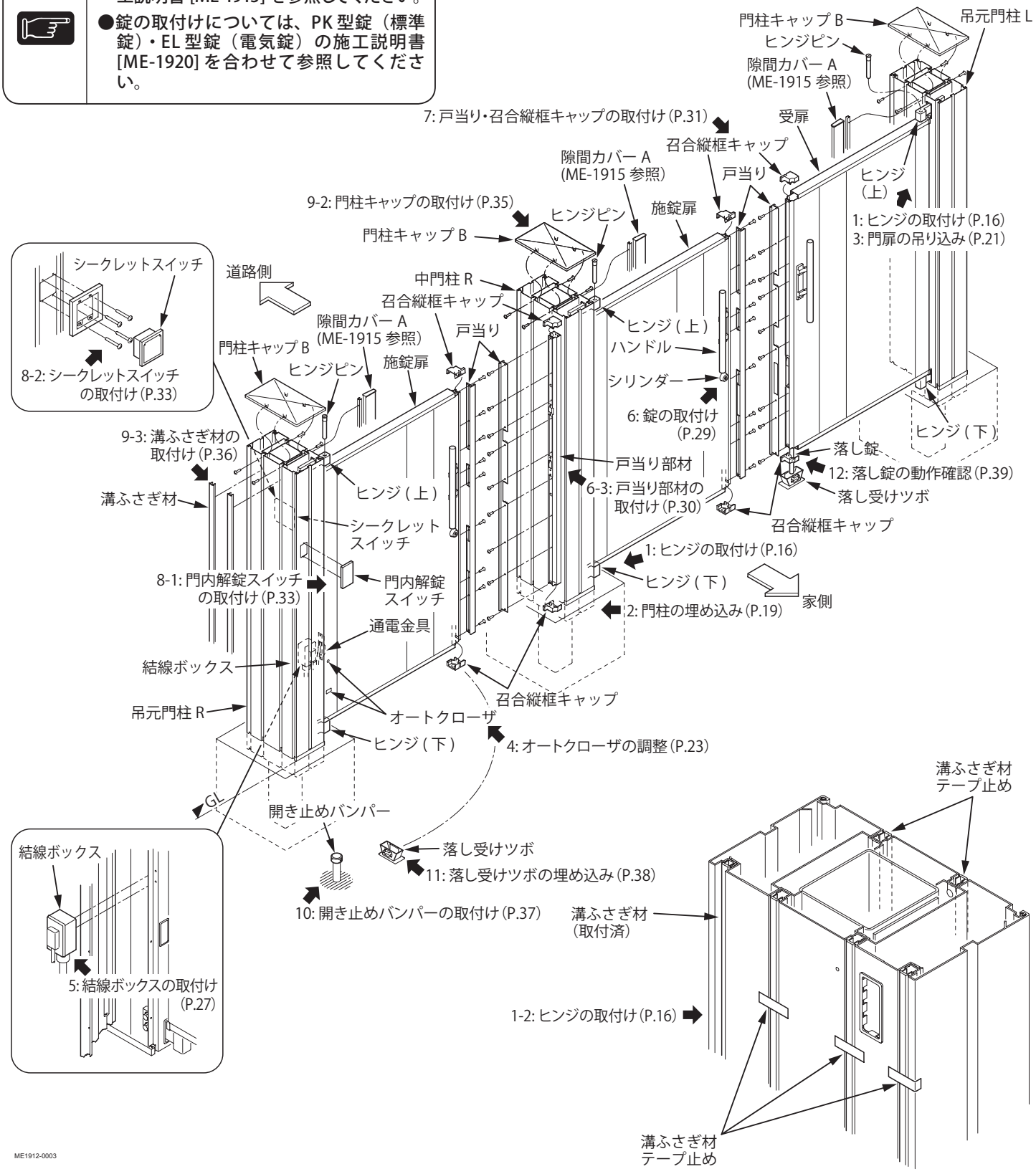
ME1912-0002

「1-2. ヒンジの取付け」で取外す溝ふさぎ材（テープ止め）は、無くさないようにしてください。「9-3. 溝ふさぎ材の取付け」で使用します。

デラックス門柱・通用門付両開き

※本図は、電気錠タイプ・右通用門・右勝手を示しています。
※本図は主な部品の名称を示すものであり、全ての部品および取付個数を示すものではありません。

●隙間カバーについては、隙間カバーの施工説明書 [ME-1915] を参照してください。
●錠の取付けについては、PK 型錠（標準錠）・EL 型錠（電気錠）の施工説明書 [ME-1920] を合わせて参照してください。



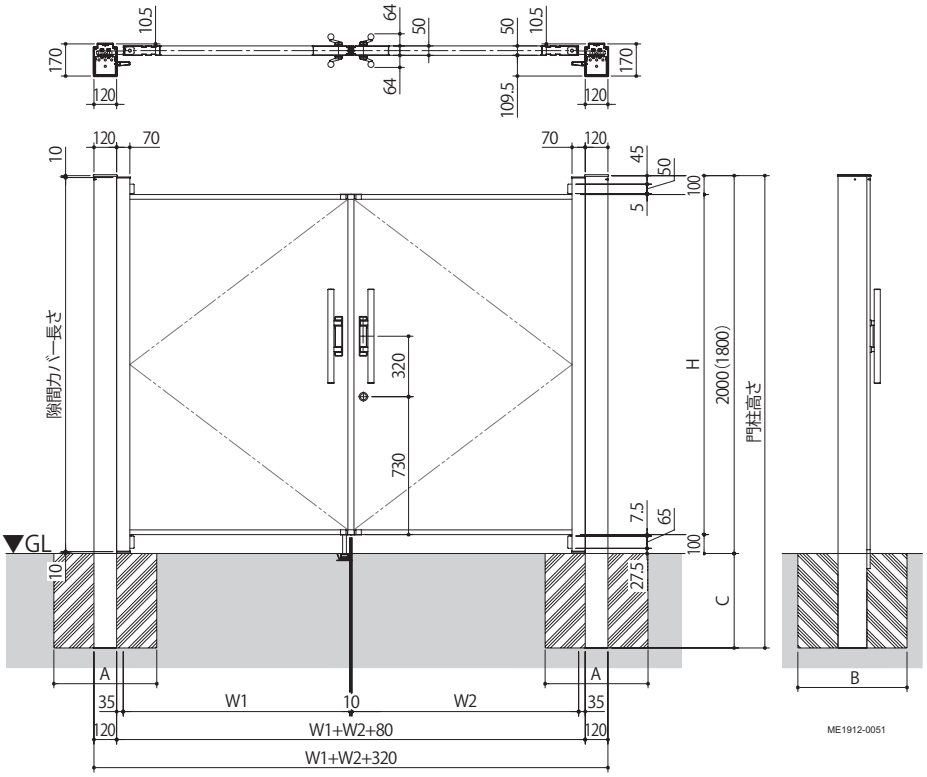
ME1912-0003

「1-2. ヒンジの取付け」で取外す溝ふさぎ材（テープ止め）は、無くさないようにしてください。「9-3. 溝ふさぎ材の取付け」で使用します。

納まり図

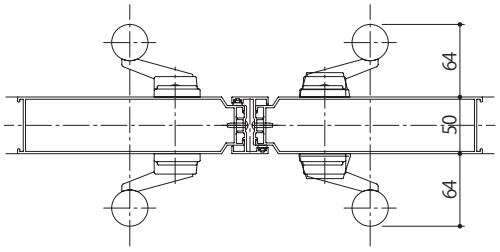
● W= 門扉巾寸法、H= 門扉高さ寸法を示しています。
●この納まり図は、W1200・H1800、「右勝手・内開き」の外観図です。
※（ ）内寸法は H1600 の場合を示しています。

標準門柱・両開き



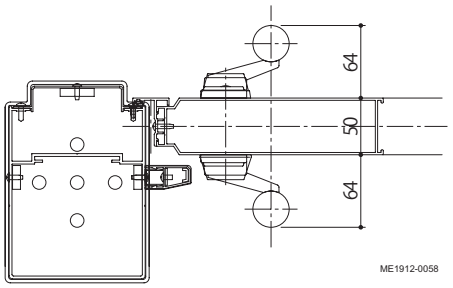
ME1912-0051

●両開き・戸当り詳細図



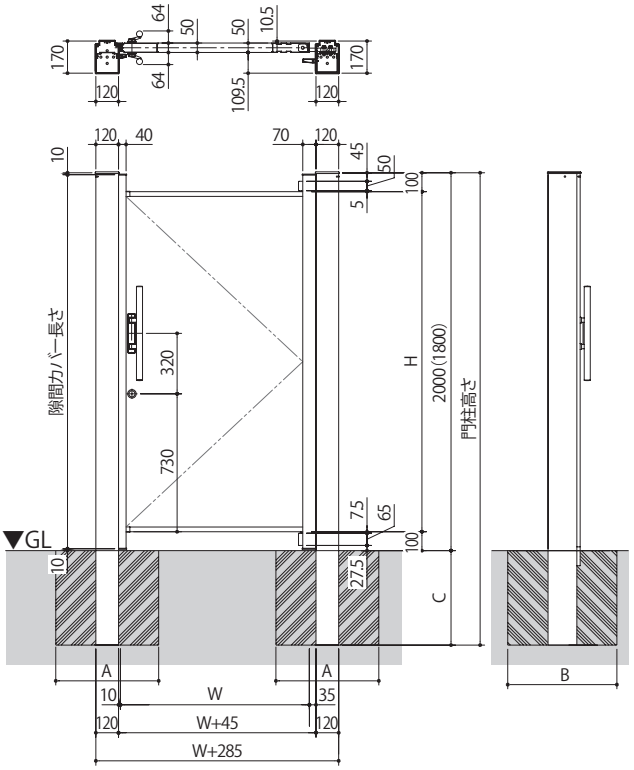
ME1912-0057

●片開き・戸当り詳細図



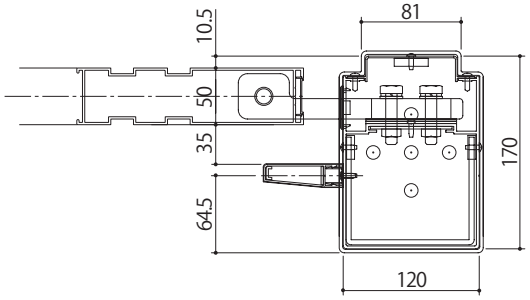
ME1912-0058

標準門柱・片開き



ME1912-0052

標準門柱寸法

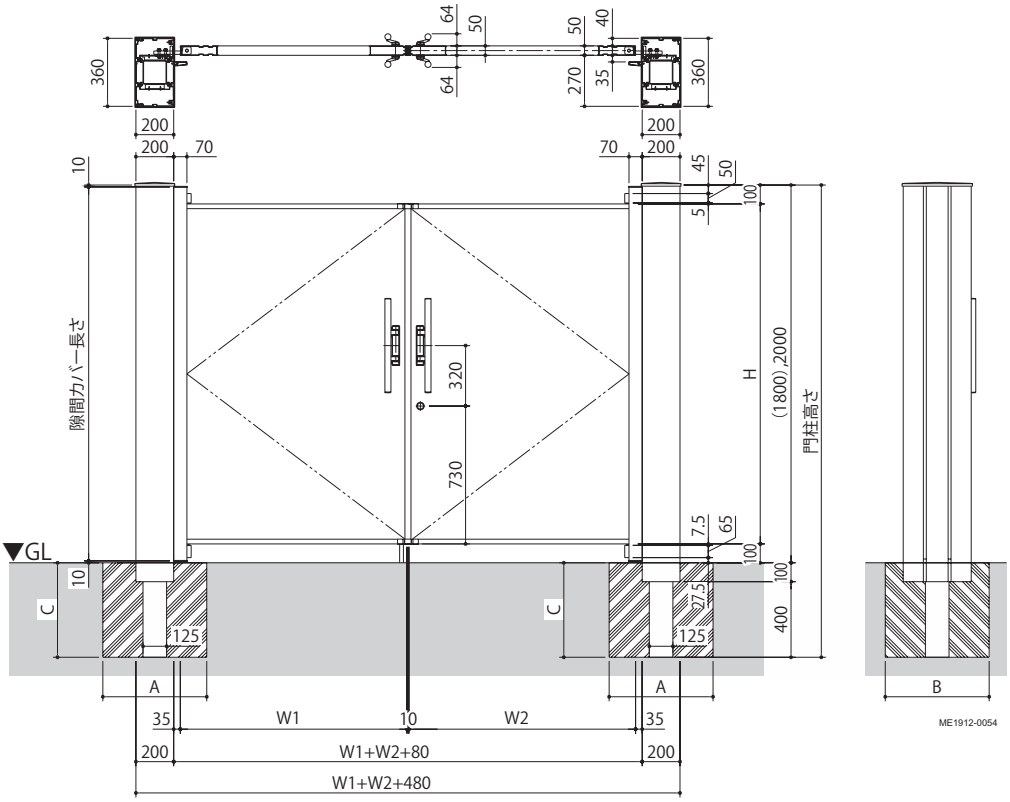


ME1912-0053

●寸法一覧表 (mm)

呼称	門柱高さ	隙間カバー長さ	H	W	A	B	C
標準門柱	2300	1780	1600	1000	450	450	500
				1200			
				1400			
				1600			
	2500	1980	1800	1000	550	550	
				1200			
				1400			
				1600			

デラックス門柱・両開き

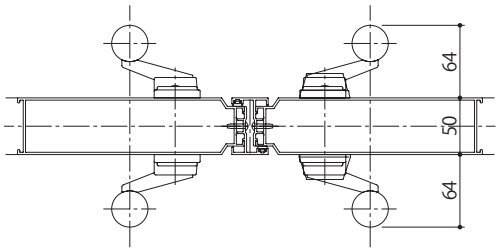


●寸法一覧表

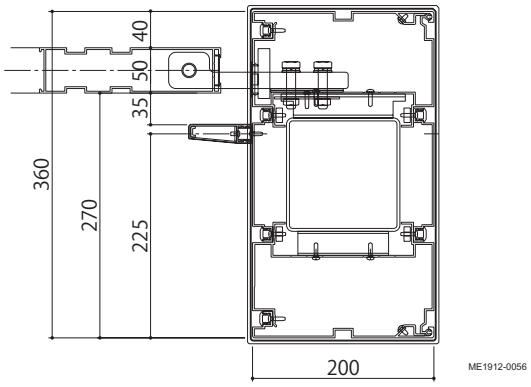
(mm)

呼称	門柱高さ	隙間カバー長さ	H	W	A	B	C
デラックス門柱	2300	1780	1600	1000	450	450	500
				1200			
				1400			
				1600			
	2500	1980	1800	1000	550	550	
				1200			
				1400			
				1600			

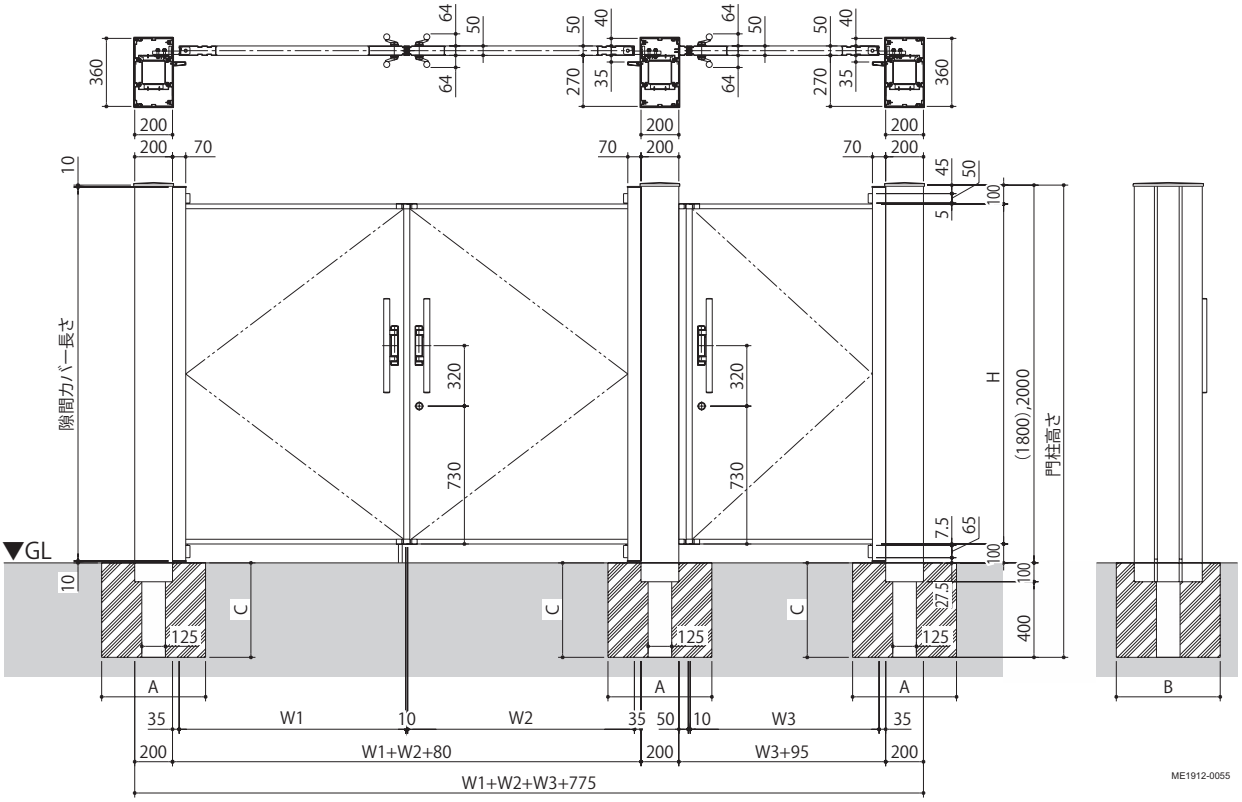
●両開き戸当り詳細図



デラックス門柱寸法



デラックス門柱・通用門付両開き

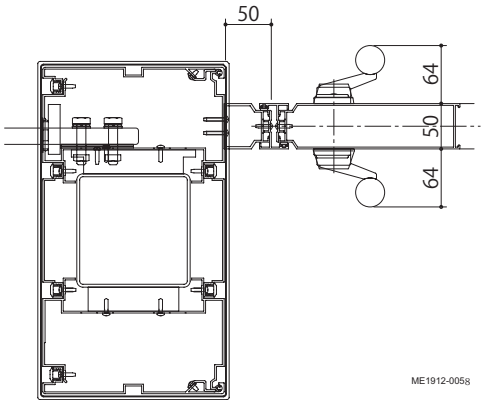


●寸法一覧表

(mm)

呼称	門柱高さ	隙間カバー長さ	H	W1・W2	W3	A	B	C
デラックス門柱	2300	1780	1600	1000	1000	450	450	500
				1200				
				1400				
				1600				
	2500	1980	1800	1000		550	550	
				1200				
				1400				
				1600				

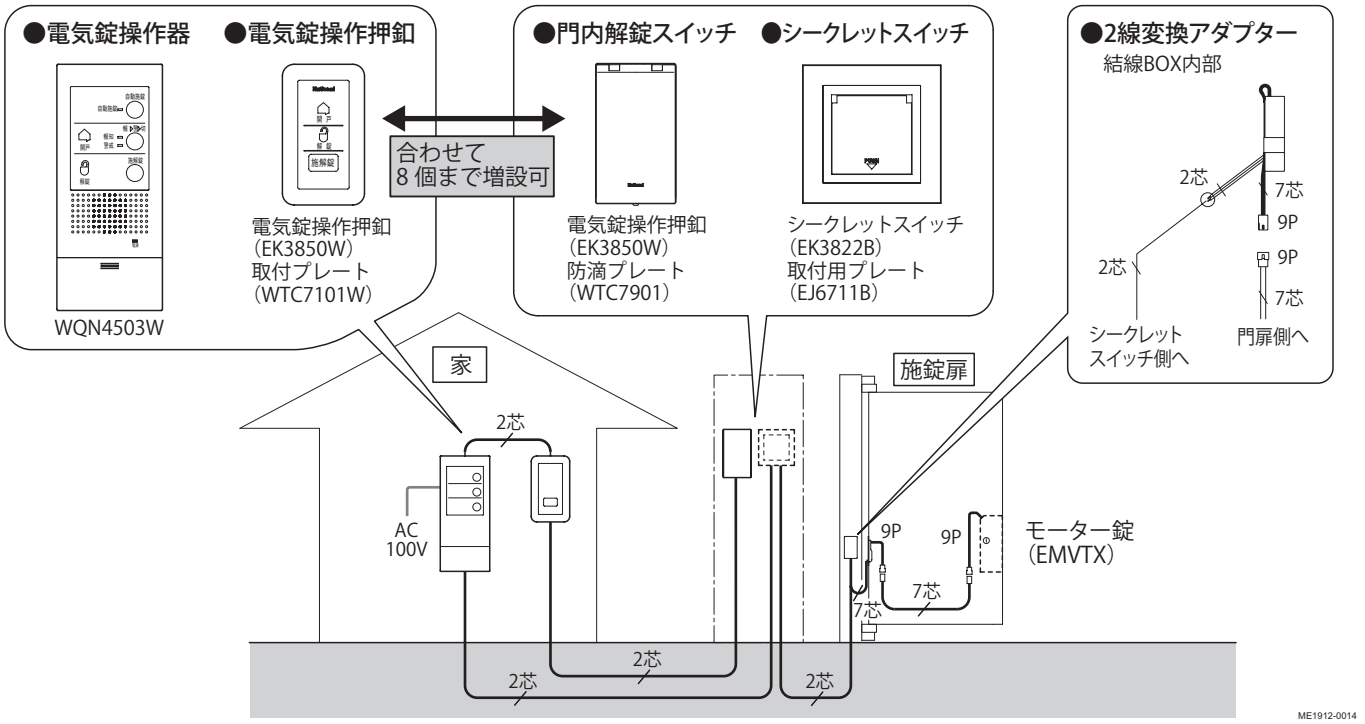
●通用門戸当り詳細図



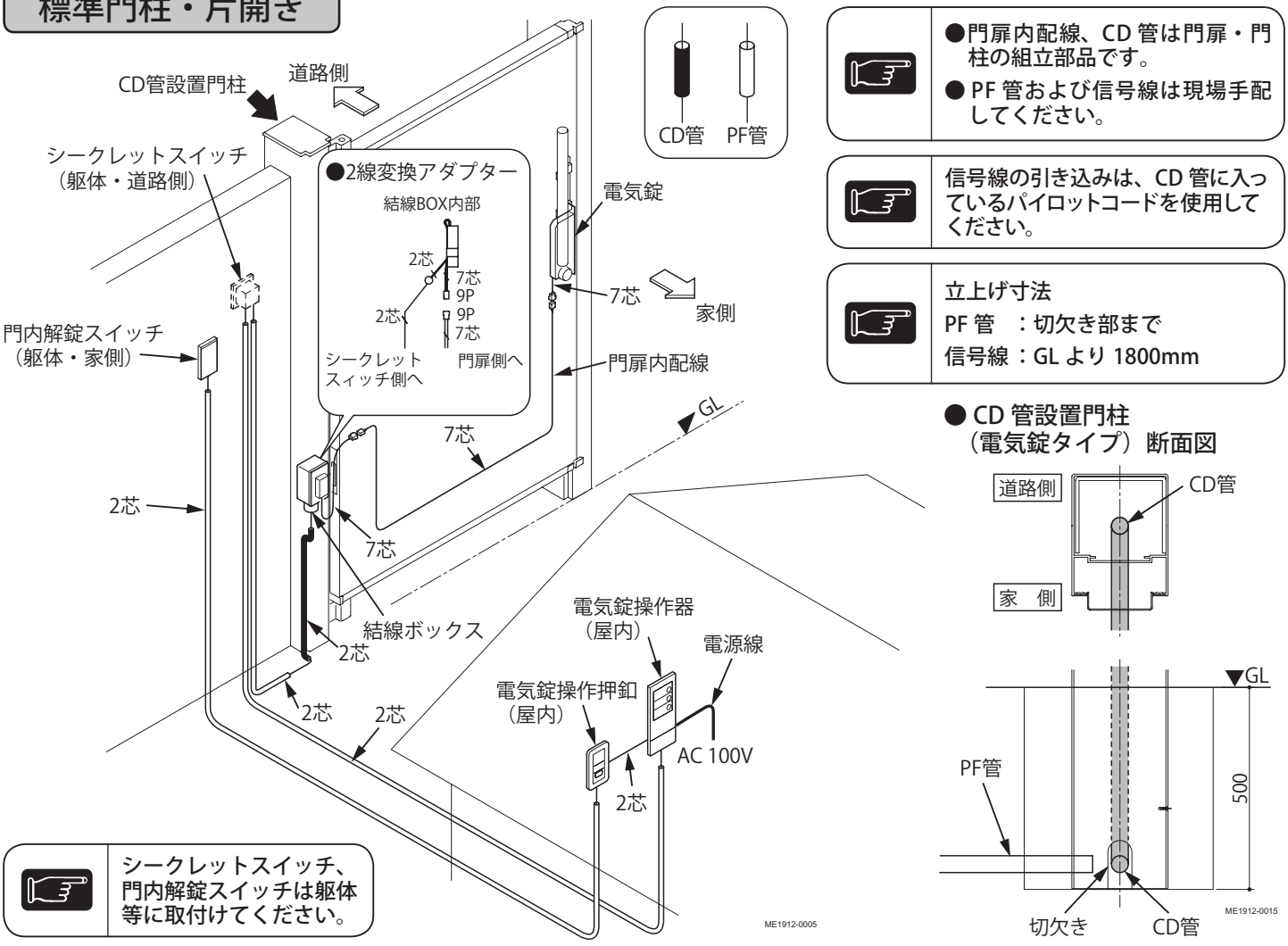
配線図

●各納まりごとの配線図を参照してください。
●ここでは「右勝手・内観図」のイラストで説明しています。

システム図



標準門柱・片開き



シークレットスイッチ、門内解錠スイッチは躯体等に取付けてください。

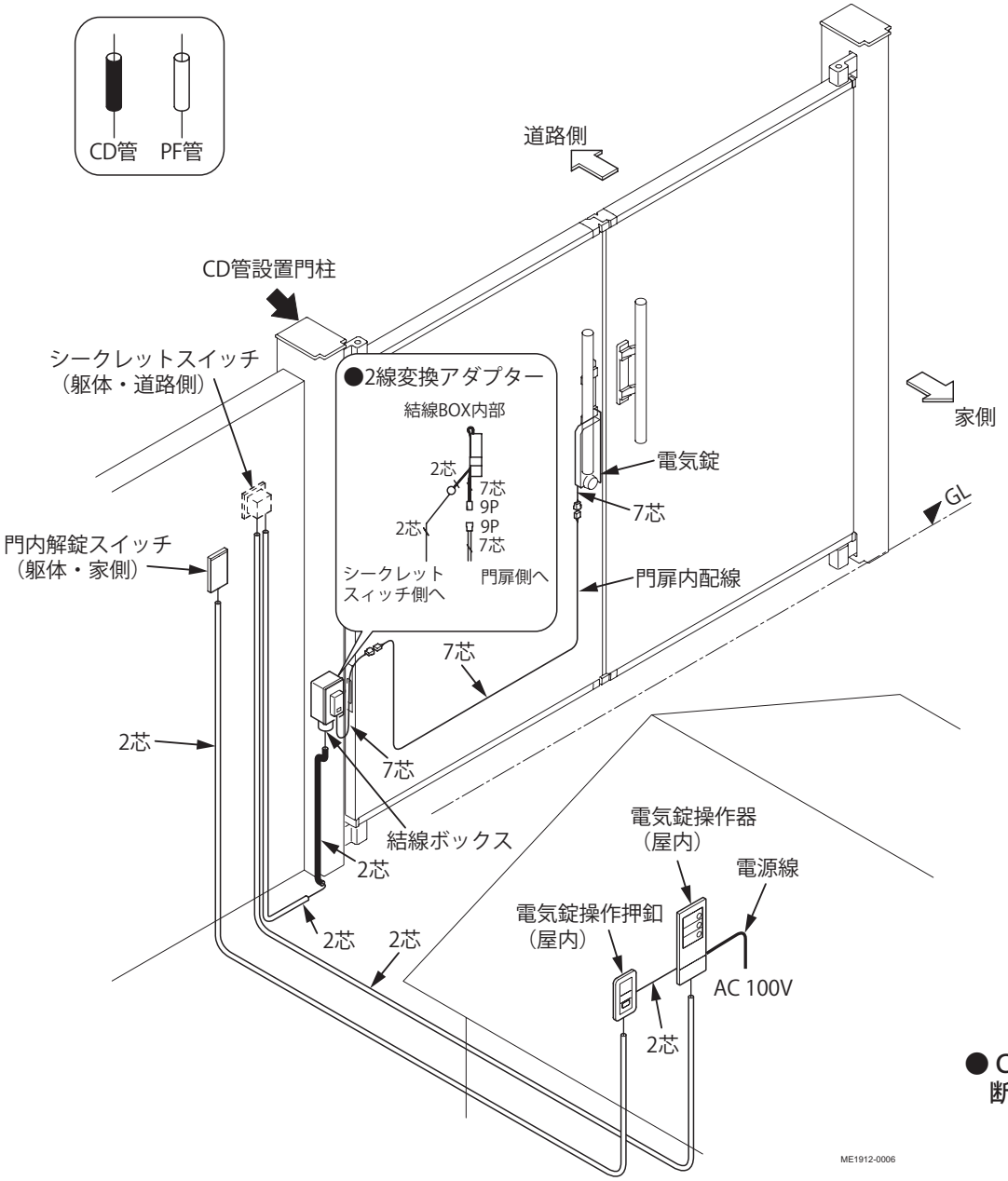
●門扉内配線、CD 管は門扉・門柱の組立部品です。
● PF 管および信号線は現場手配してください。

信号線の引き込みは、CD 管に入っているパイロットコードを使用してください。

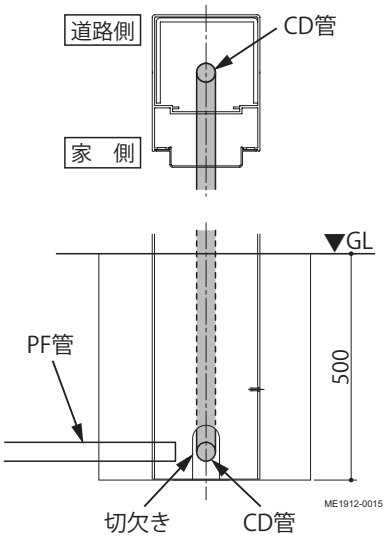
立上げ寸法
PF 管　：切欠き部まで
信号線：GL より 1800mm

● CD 管設置門柱
（電気錠タイプ）断面図

標準門柱・両開き



● CD 管設置門柱（電気錠タイプ）
断面図



●門扉内配線、CD 管は門扉・門柱の組立部品です。
● PF 管および信号線は現場手配してください。

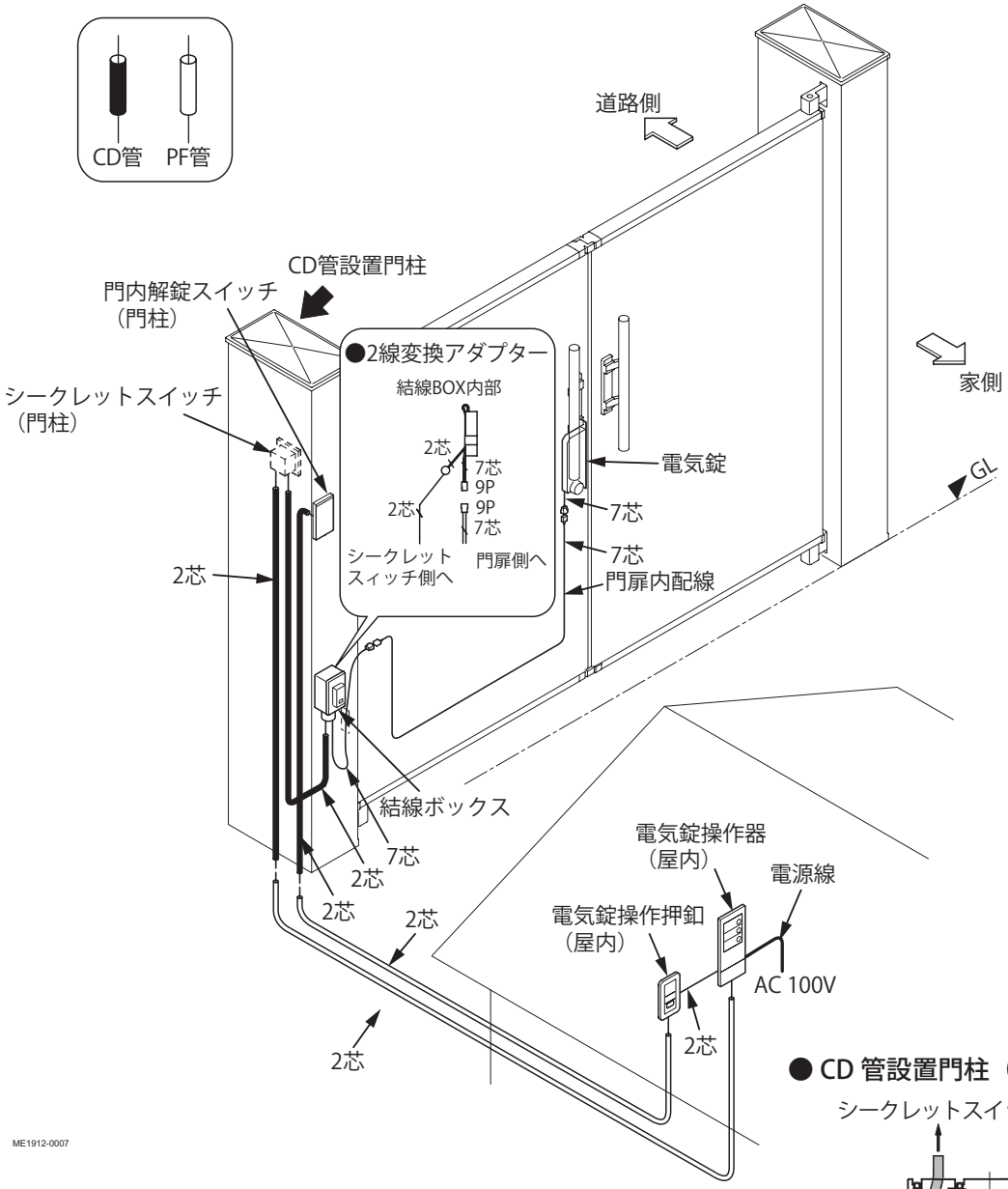
信号線の引き込みは、CD 管に入っているパイロットコードを使用してください。

立上げ寸法
PF 管　：切欠き部まで
信号線：GL より 1800mm

シークレットスイッチ、門内解錠スイッチは躯体等に取付けてください。

デラックス門柱・両開き

※シークレットスイッチ、門内解錠スイッチの配線の流れは一例です。

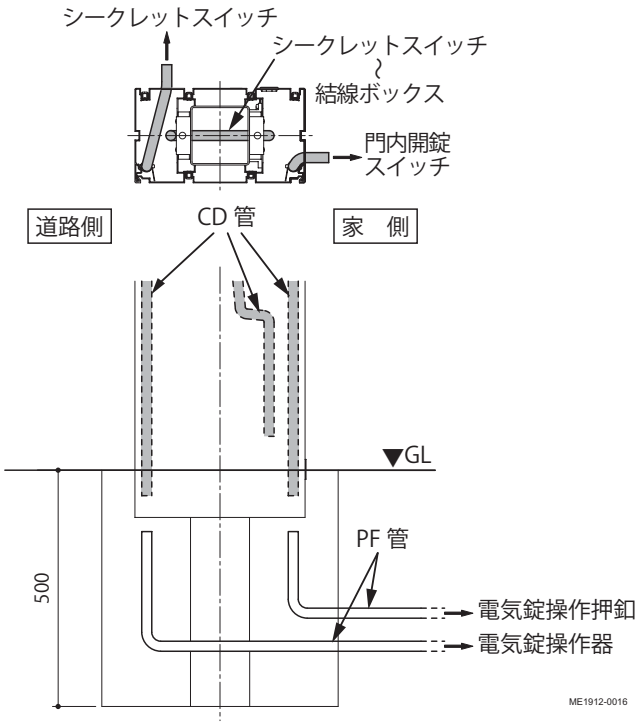


●門扉内配線、CD 管は門扉・門柱の組立部品です。
● PF 管および信号線は現場手配してください。

信号線の引き込みは、CD 管に入っているパイロットコードを使用してください。

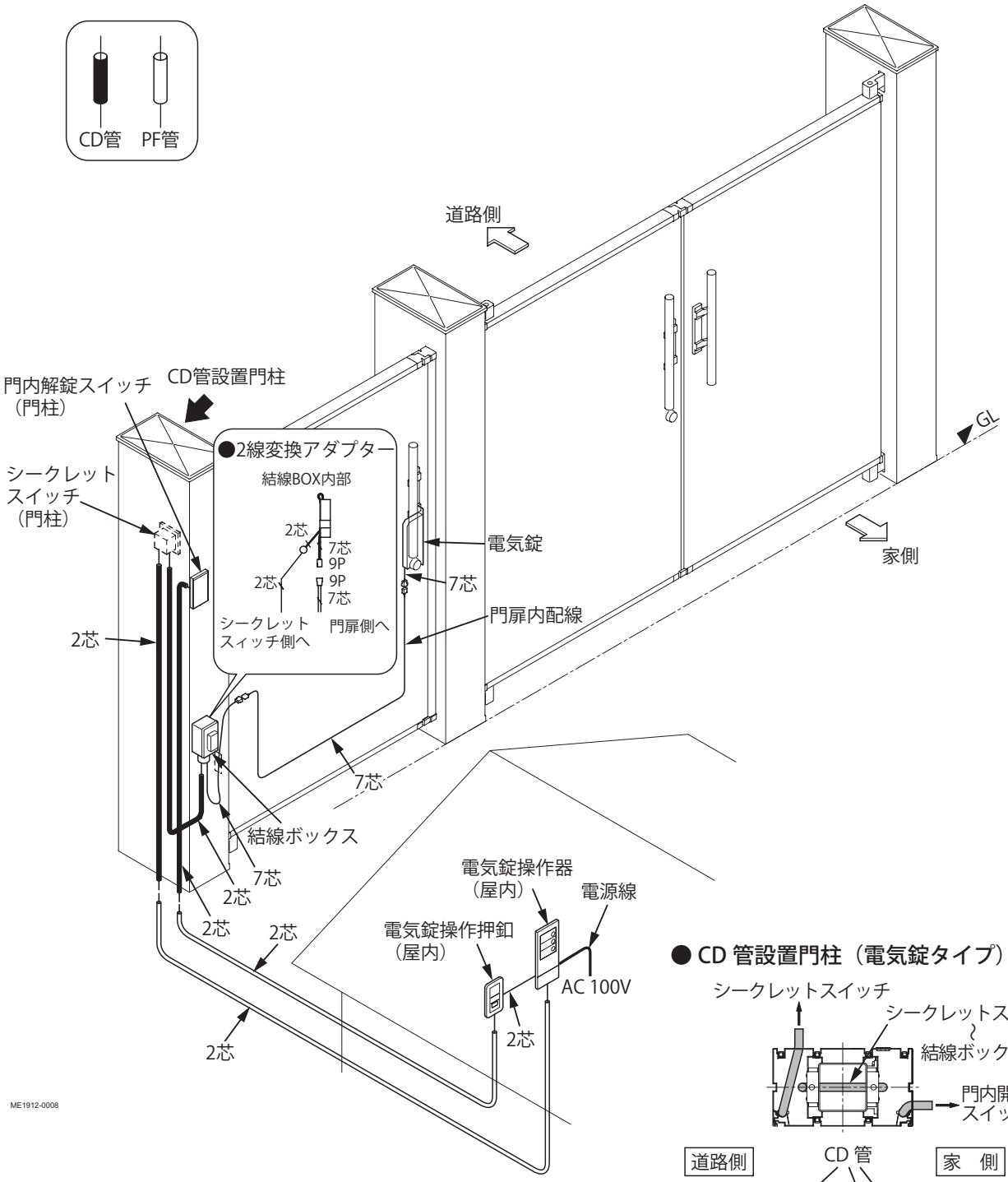
立上げ寸法
PF 管　：GL より 100mm
信号線：GL より 1800mm

● CD 管設置門柱（電気錠タイプ）断面図

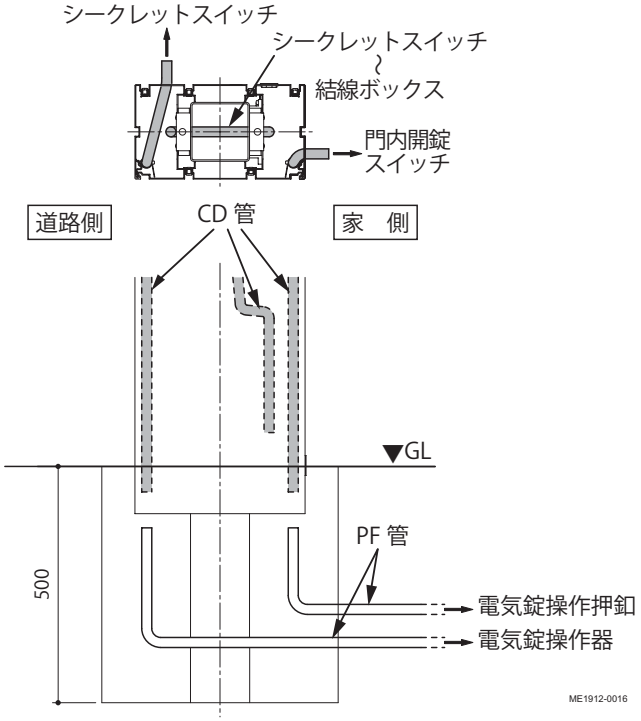


デラックス門柱・通用門付両開き

※ここでは右通用門・右勝手のイラストで説明しています。
※シークレットスイッチ、門内解錠スイッチの配線の流れは一例です。



● CD 管設置門柱（電気錠タイプ）断面図



●門扉内配線、CD 管は門扉・門柱の組立部品です。
● PF 管および信号線は現場手配してください。

信号線の引き込みは、CD 管に入っているパイロットコードを使用してください。

立上げ寸法
PF 管　：GL より 100mm
信号線：GL より 1800mm

施工前の確認

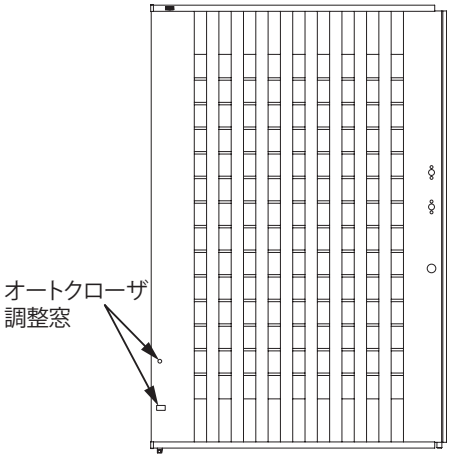
●施工前に確認してください。

門扉の種類

●電気錠用扉の場合、オートクローザの調整窓がある方が家側になります。
●両開きの場合、施錠扉と受扉があります。

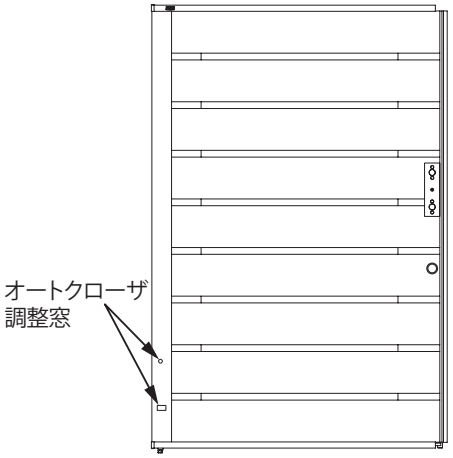
※本図は、「右勝手」の施錠扉・内観図を示しています。

● A 型（井桁格子）



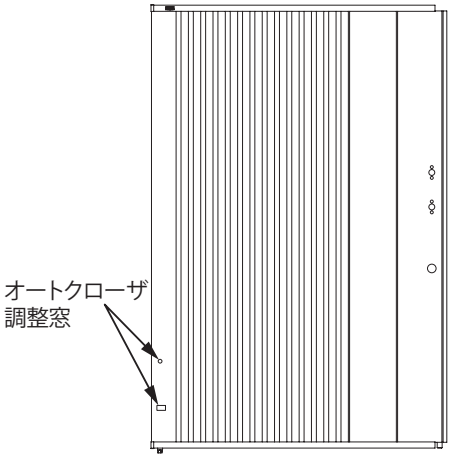
ME1912-0010

● B 型（横太格子）



ME1912-0011

● C 型（縦目隠し）



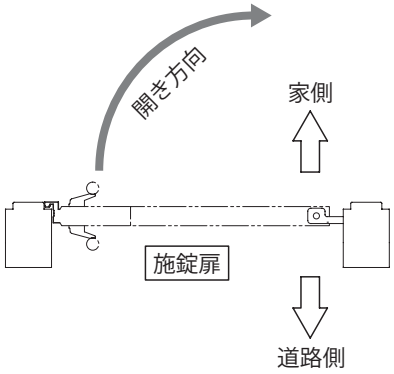
ME1912-0012

開きの確認

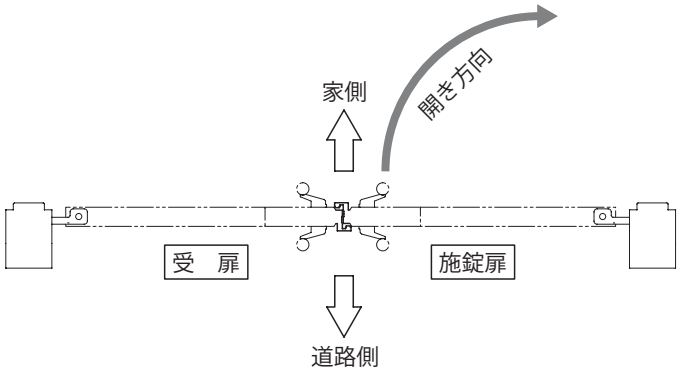
門扉は「内開き」専用です。
（「外開き」には変更できません）

※標準門柱のイラストで説明しています。

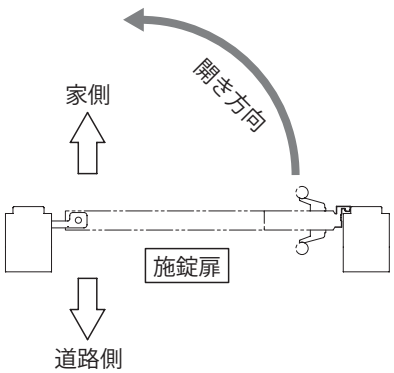
●片開き・右勝手
●右通用門・右勝手



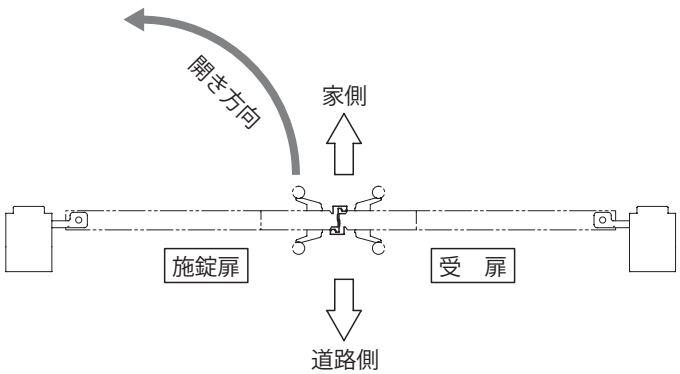
●両開き・右勝手



●片開き・左勝手
●左通用門・左勝手



●両開き・左勝手



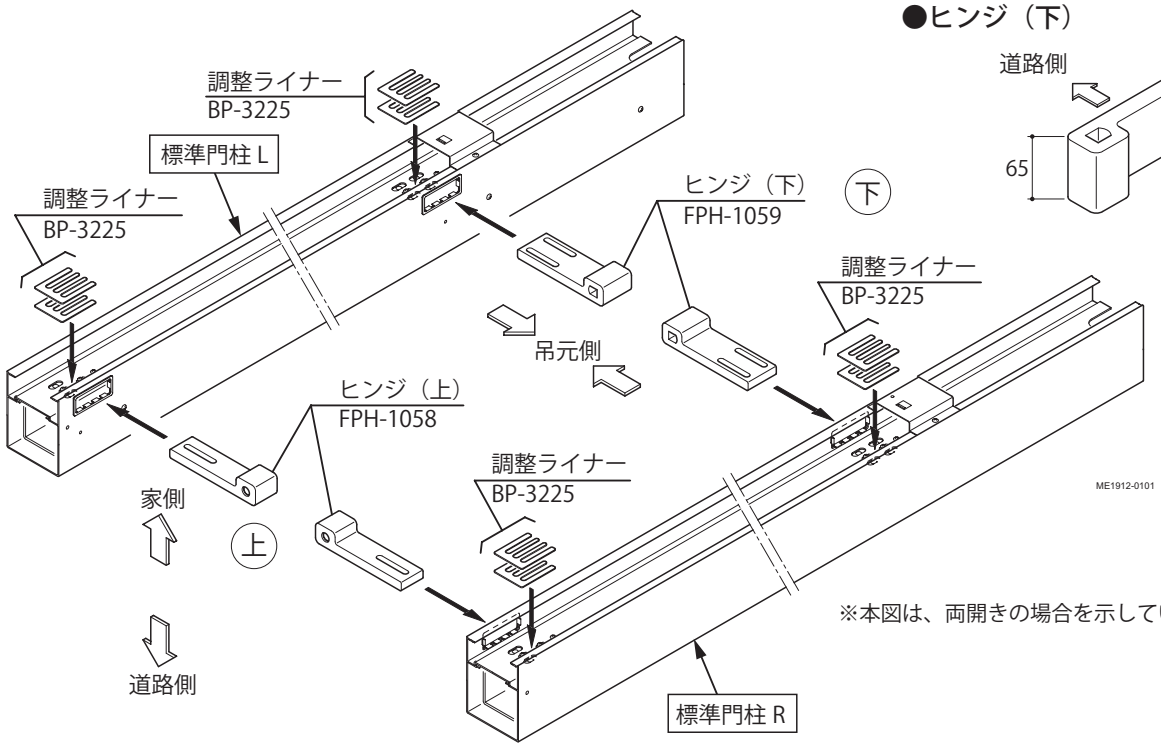
ME1912-0009

1 ヒンジの取付け

1－1 標準門柱の場合

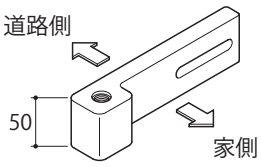
ヒンジには上・下および向きがあります。

①門柱にヒンジを挿入してください。

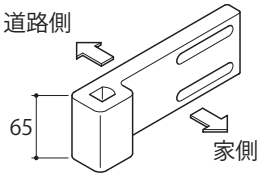


※本図は、両開きの場合を示しています。

●ヒンジ（上）



●ヒンジ（下）



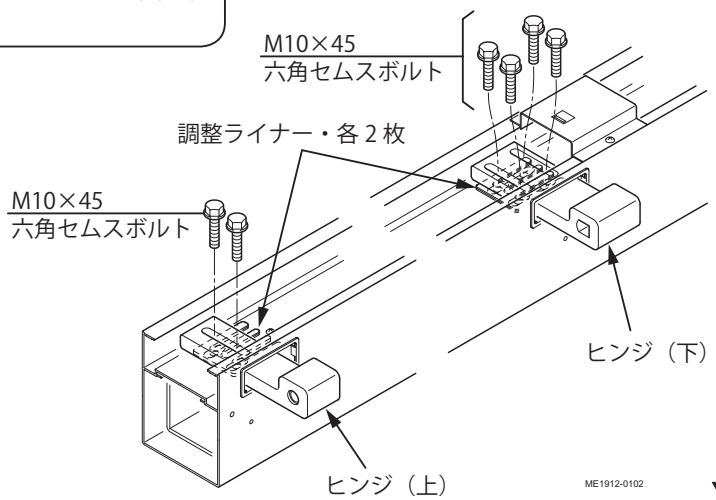
ME1912-0106

②必要に応じて、調整ライナーを使用してヒンジレベルを調整してください。

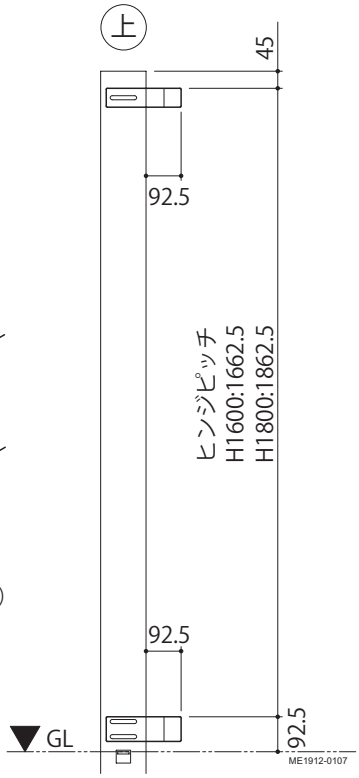
調整ライナー：t=2.0mm
※標準では、1 ヶ所につき 2 枚使用

③ヒンジの長孔中央をボルトで固定してください。

ヒンジの固定は、右のヒンジピッチ図を参考にしてください。



●ヒンジピッチ図



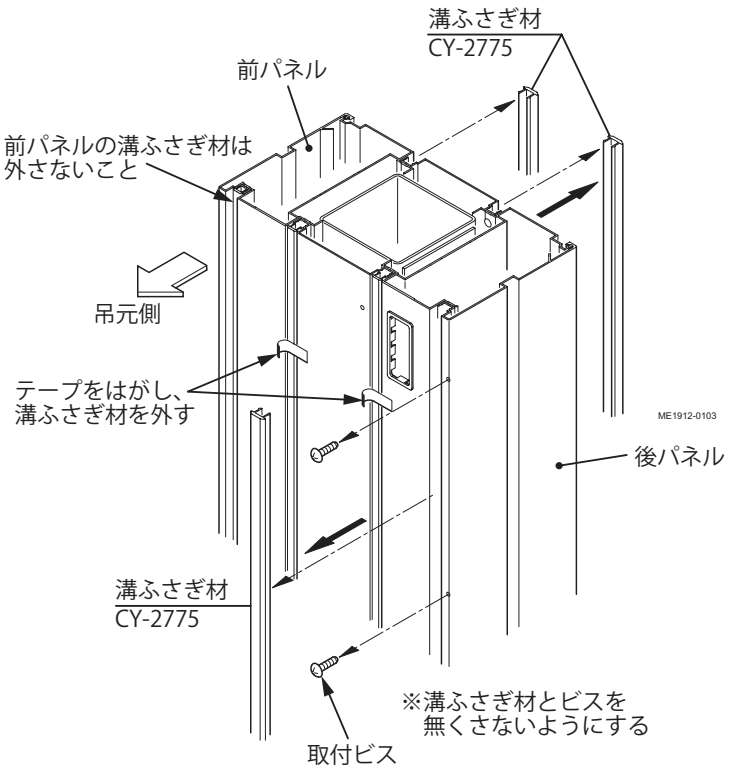
1－2 デラックス門柱の場合

通用門付両開きの場合は、門柱が３本になります。「納まり図」でヒンジ取付位置を確認してください。

ヒンジには上・下および向きがあります。

①テープ止めされている溝ふさぎ材（5 ヶ所）を外してください。

溝ふさぎ材は各溝に適した長さになっています。
「9-3. 溝ふさぎ材の取付け」で使用するので、外した後は無くさないようにしてください。



②後パネル取付ビスを取外してください

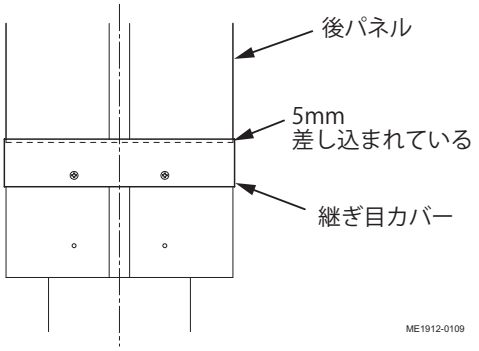
取外したビスは「9-2. 門柱キャップの取付け」で使用するので無くさないようにしてください。
（φ 4 × 16 ナベタッピン 3 種）

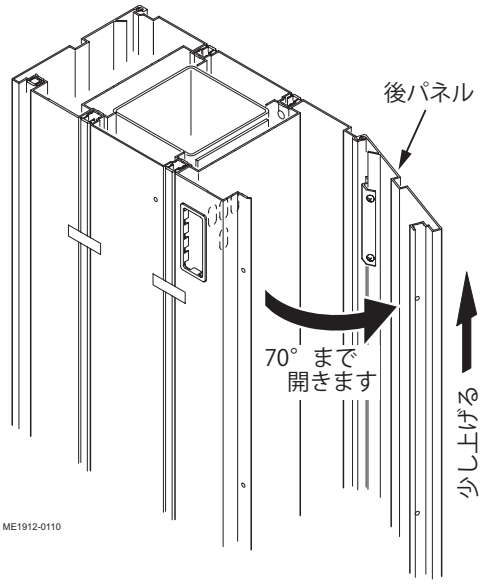
③後パネルを開いてください

後パネルを無理に全開しないでください。
※後パネルは、70°程度まで開くことが出来ます。

後パネルは継ぎ目カバーに 5mm 差し込まれています。持ち上げながら開いてください。

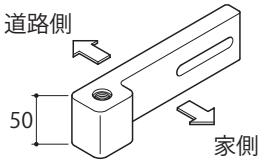
●後パネル下部



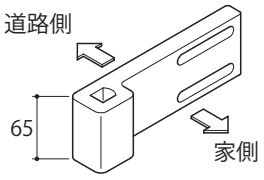


④門柱にヒンジを挿入してください。

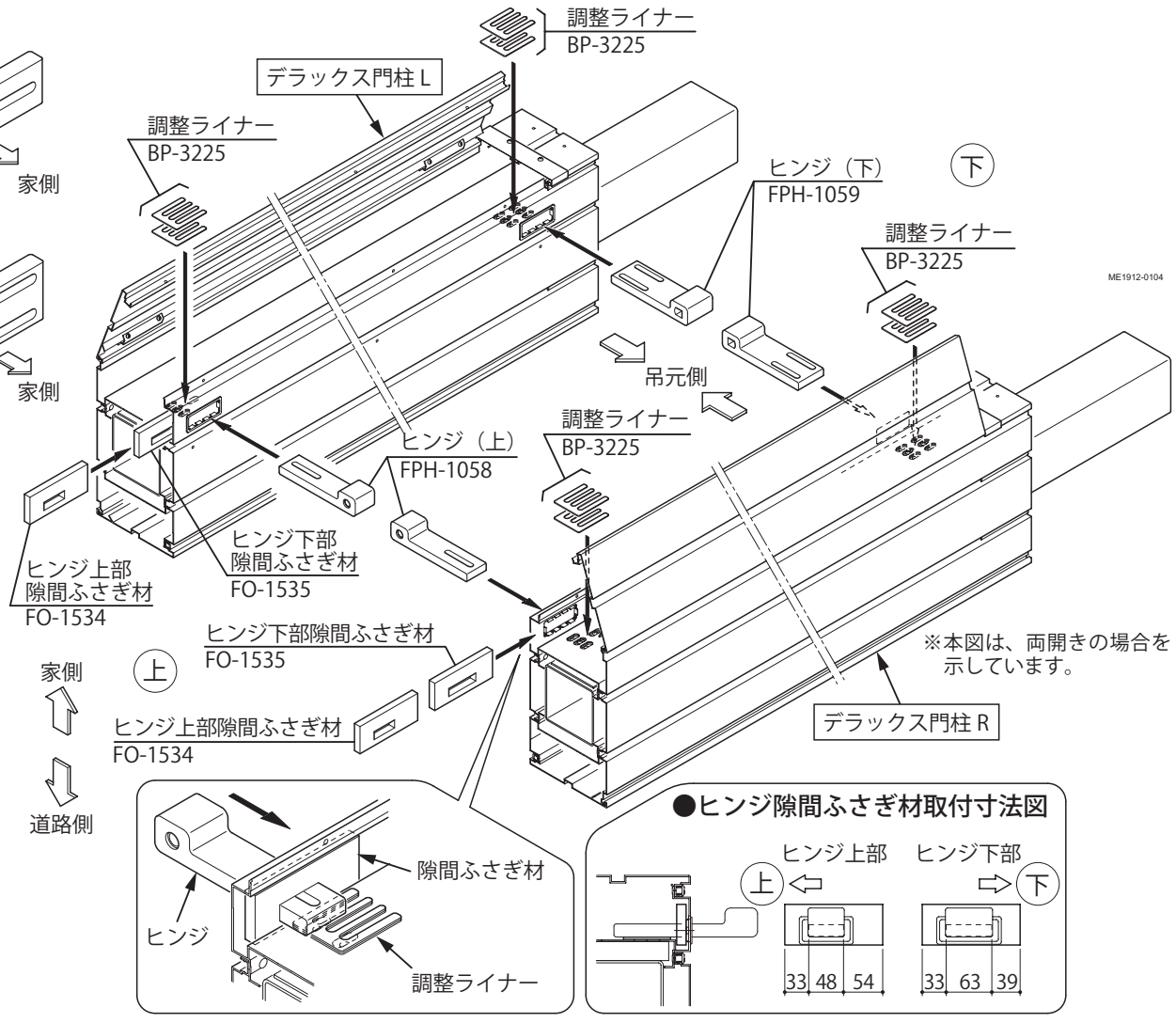
●ヒンジ（上）



●ヒンジ（下）



ME1912-0106



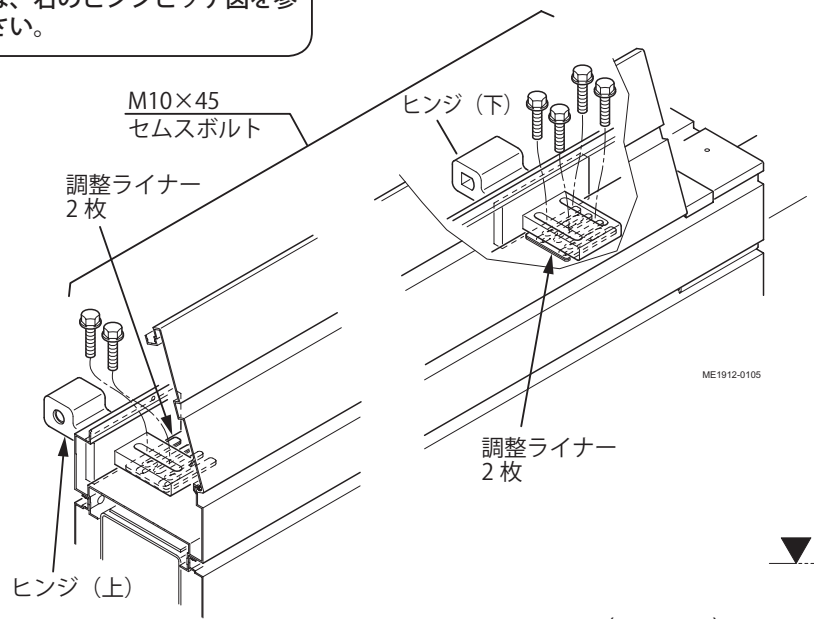
●ヒンジ隙間ふさぎ材取付寸法図

⑤必要に応じて、調整ライナーを使用してヒンジレベルを調整してください。

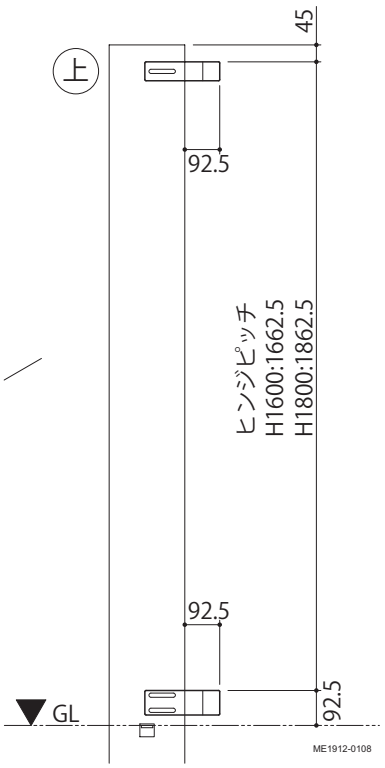
調整ライナー：t=2.0mm
※標準では、1 ヶ所につき 2 枚使用

⑥ヒンジの長孔中央をボルトで固定してください。

ヒンジの固定は、右のヒンジピッチ図を参考にしてください。



●ヒンジピッチ図



2 門柱の埋め込み

●地下埋設物 (給排水管等) に影響を及ぼさないように柱位置を決めてください。
●本図は「右勝手・内開き」の場合を示しています。

2－1 標準門柱の場合

電気錠タイプの場合

「配線図」を参照して位置を確認してください。

①現場手配品の PF 管と門柱内の CD 管を接続し、パイロットコードを使用して信号線を取り込んでください。

現場の状況によっては、PF 管・CD 管の切断が必要になる場合があります。

標準錠・電気錠タイプの場合

②「納まり図」で位置や寸法を確認し、門柱を設置してください。

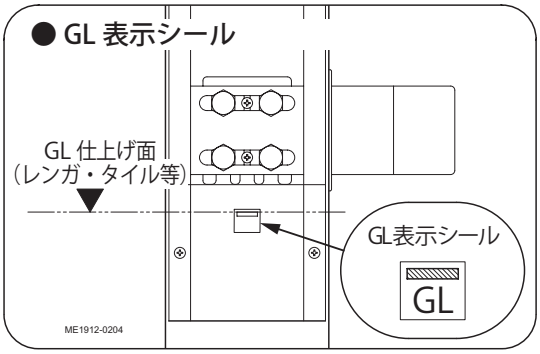
必ず、指定の深さで門柱を埋め込んでください。(埋め込み深さ：500mm)
※指定の深さで埋め込まないと、ヒンジの調整の不具合や、ヒンジカバーの取付不良の原因となります。

柱の位置とレベルを正確に合わせてください。
※正確に合わせないと、門扉が吊り込めなかったり、施錠不良の原因となります。

吊元門柱のヒンジを柱内側へ向けてください。

GL 表示シールを目安にしてください。

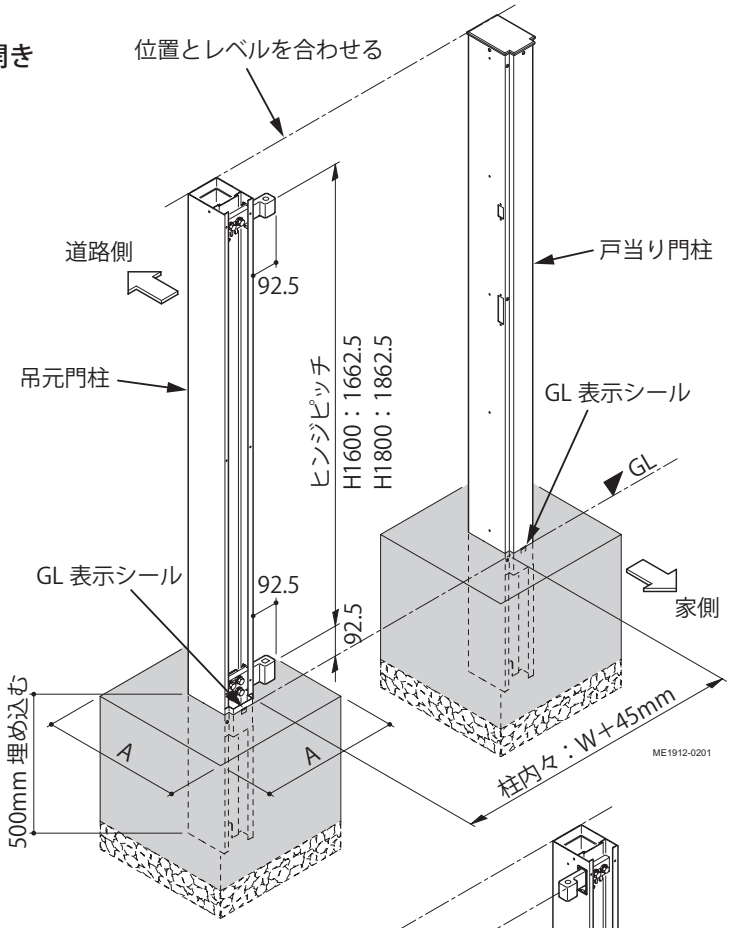
● GL 表示シール



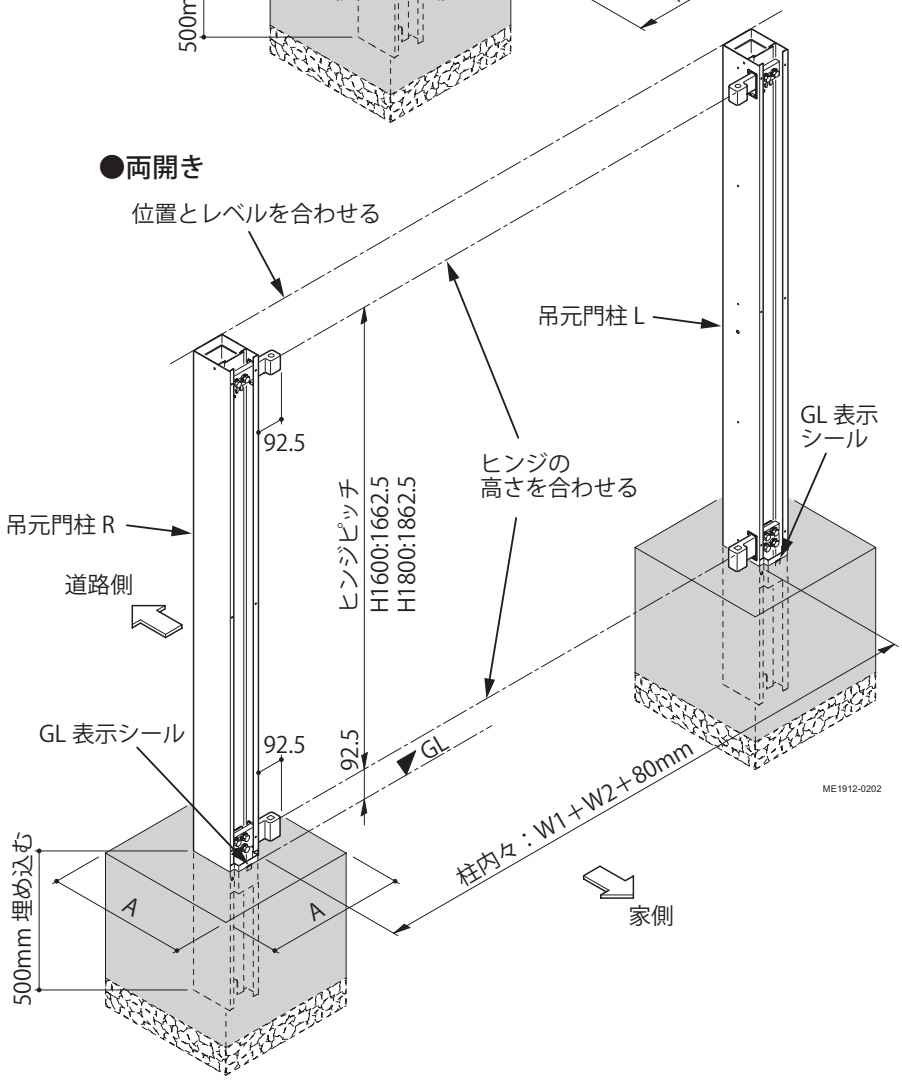
●基礎寸法 (mm)

門柱高さ	A
H1600	450
H1800	550

●片開き



●両開き



2－2 デラックス門柱の場合

電気錠タイプの場合

「配線図」を参照して位置を確認してください。

現場の状況によっては、PF 管・CD 管の切断が必要になる場合があります。

①現場手配品の PF 管と門柱内の CD 管を接続し、パイロットコードを使用して信号線を取り込んでください。

標準錠・電気錠タイプの場合

②「納まり図」で位置や寸法を確認し、門柱を設置してください。

必ず、指定の深さで門柱を埋め込んでください。（埋め込み深さ：500mm）
※指定の深さで埋め込まないと、ヒンジの調整の不具合や、ヒンジカバーの取付不良の原因となります。

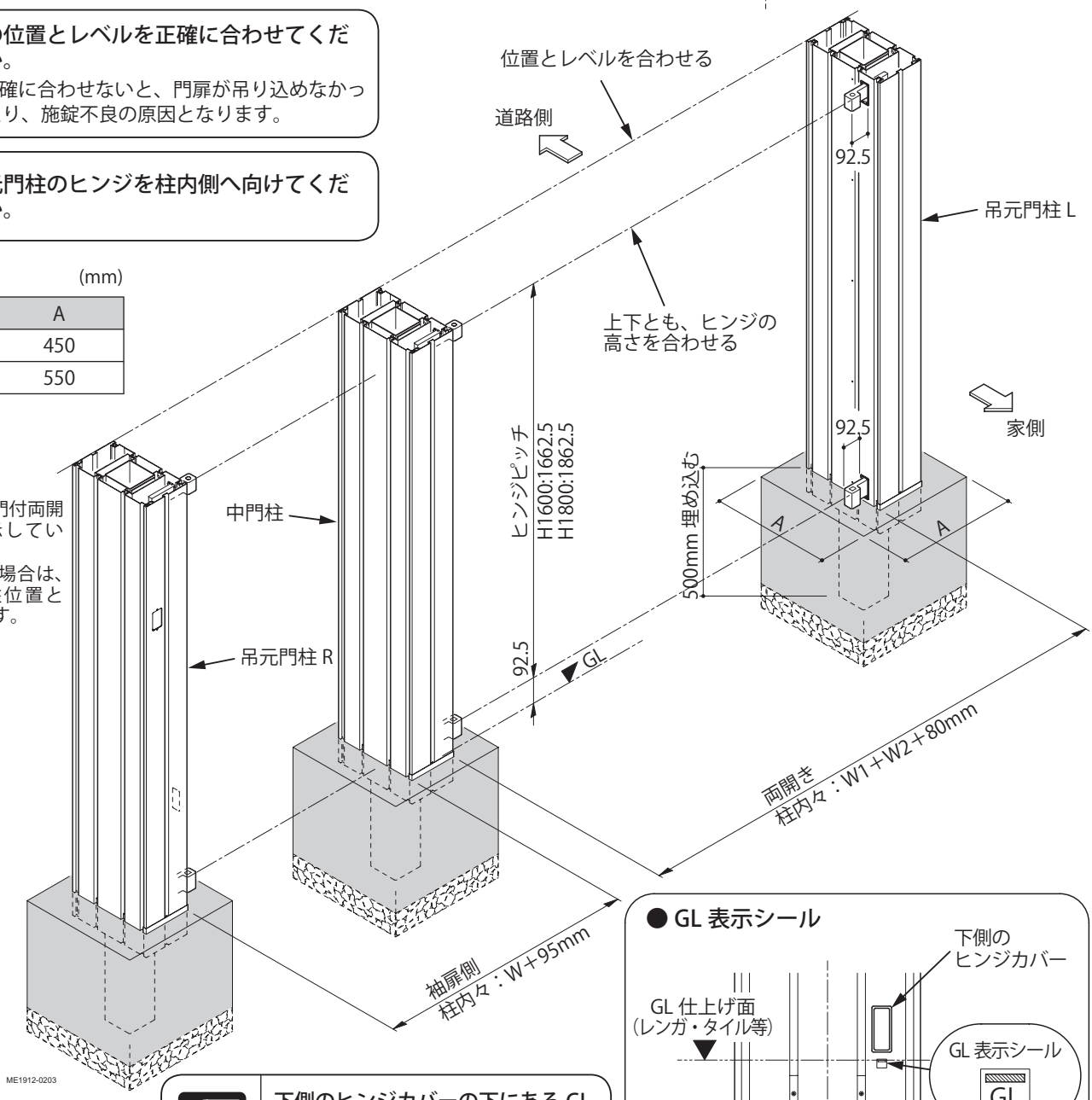
柱の位置とレベルを正確に合わせてください。
※正確に合わせないと、門扉が吊り込めなかったり、施錠不良の原因となります。

吊元門柱のヒンジを柱内側へ向けてください。

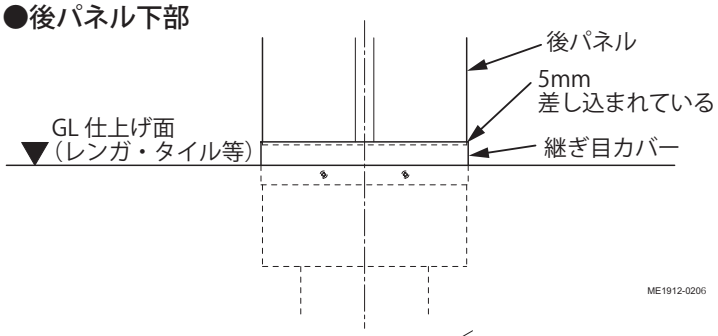
●基礎寸法 (mm)

門柱高さ	A
H1600	450
H1800	550

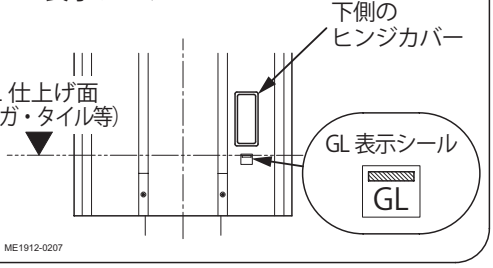
※本図は、通用門付両開きの場合を示しています。
※通用門無しの場合は、右側 2 本の柱位置と同様になります。



●後パネル下部



● GL 表示シール



下側のヒンジカバーの下にある GL 表示シールを目安にしてください。

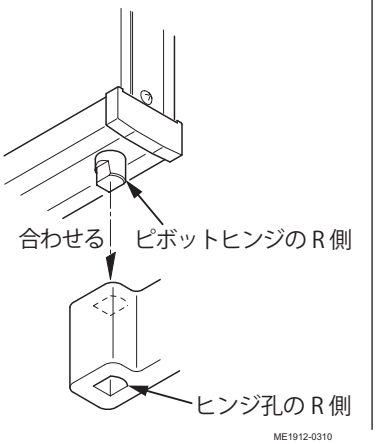
3 門扉の吊り込み

3－1 門扉の吊り込み（標準門柱の場合）

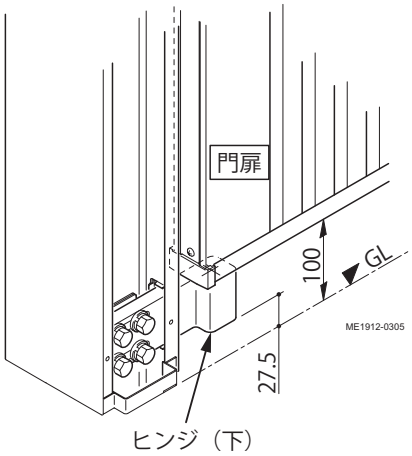
①門扉下部は、ピボットヒンジをヒンジ（下）に差し込んでください。

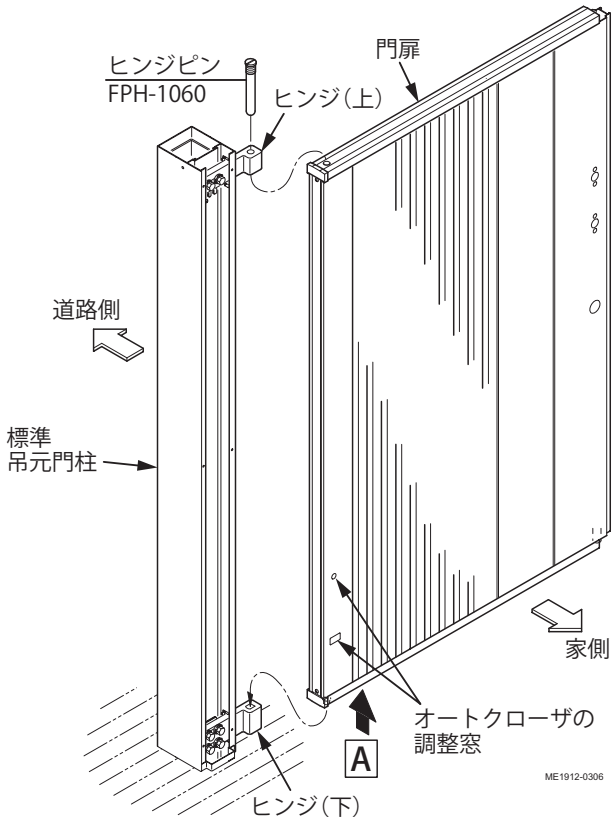
●オートクローザ付き門扉は、オートクローザの調整窓が家側になります。
●ピボットヒンジには向きがあります。
ピボットヒンジのR側をヒンジのR側に合わせて差し込んでください。

●右図のAから見る



●門扉下部：ヒンジ（下）





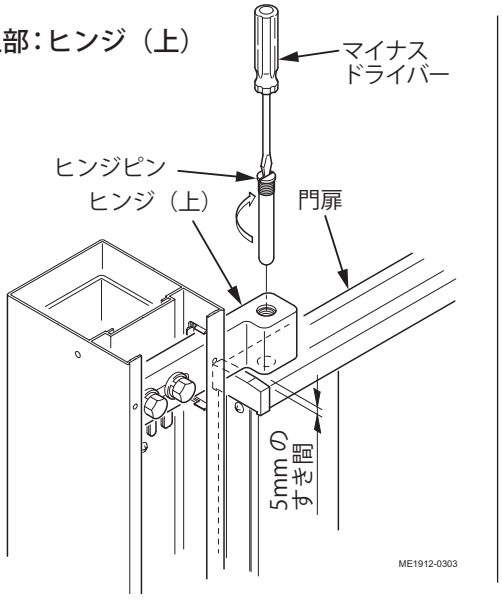
※本図は、門扉C型・電気錠施錠扉の場合を示しています。

②門扉上部は、ヒンジピンをヒンジ（上）に挿入し、締付けてください。

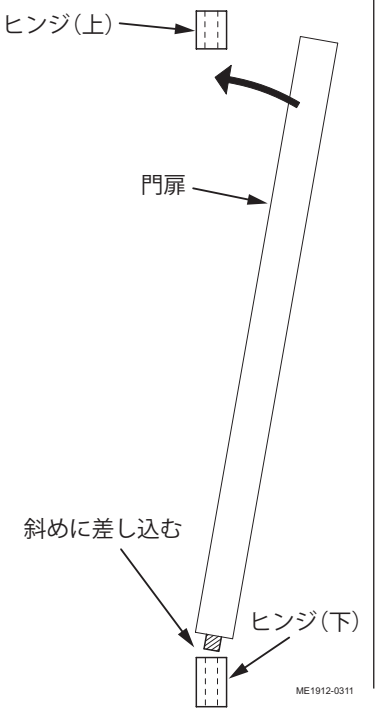
ヒンジピンの締め込みには、マイナスドライバーを使用してください。

門扉上部とヒンジのすき間：5mm
門扉下部～GL間：100mm

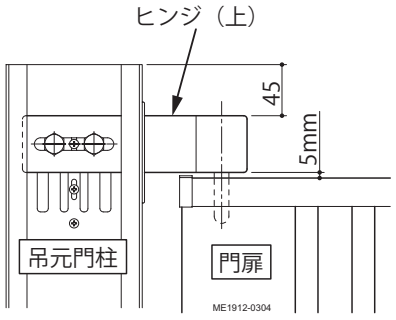
●門扉上部：ヒンジ（上）



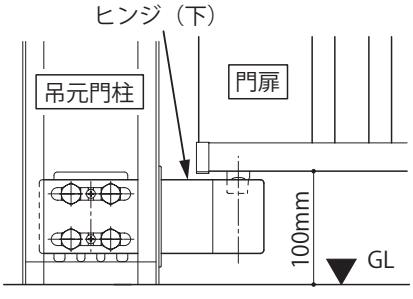
●吊り込みのポイント



●門扉上部とヒンジのすき間



●門扉下部とGL間

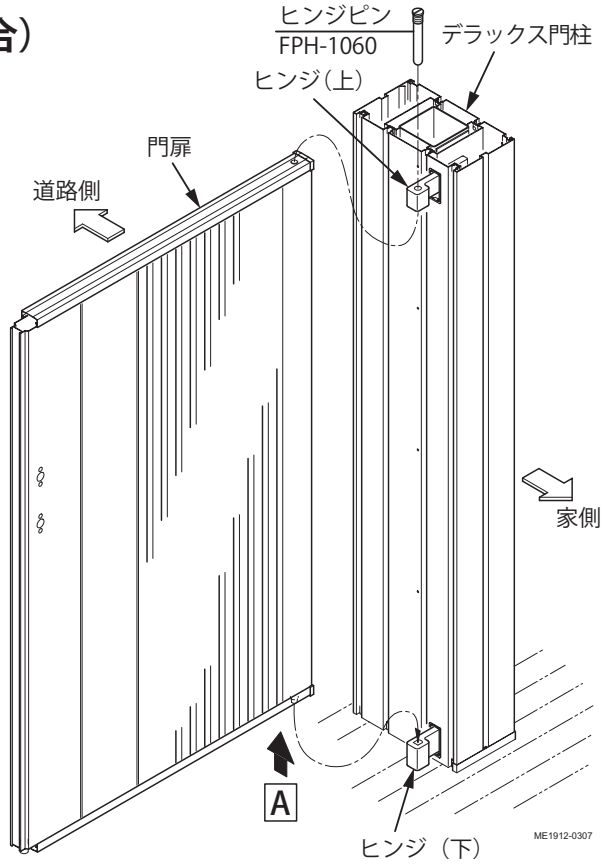


オートクローザ付き門扉は、吊り込み後、「3-3. ヒンジの調整」、「4. オートクローザの調整」が完了するまで門扉を開かないでください。
※オートクローザが破損する場合があります。

3－2 門扉の吊り込み（デラックス門柱の場合）

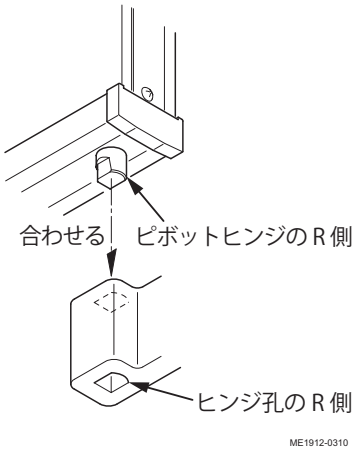
①門扉下部は、ピボットヒンジをヒンジ（下）に差し込んでください。

●オートクローザ付き門扉は、オートクローザの調整窓が家側になります。
●ピボットヒンジには向きがあります。
ピボットヒンジのR側をヒンジのR側に合わせて差し込んでください。

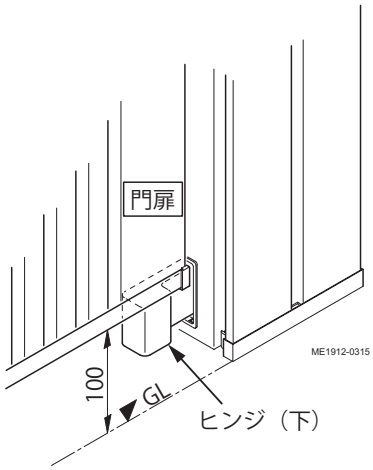


※本図は、門扉C型・受扉の場合を示しています。

●右図のAから見る



●門扉下部：ヒンジ（下）

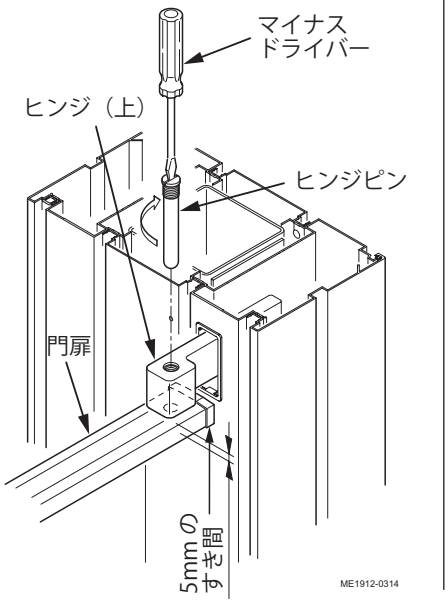


②門扉上部は、ヒンジピンをヒンジ（上）に挿入し、締付けてください。

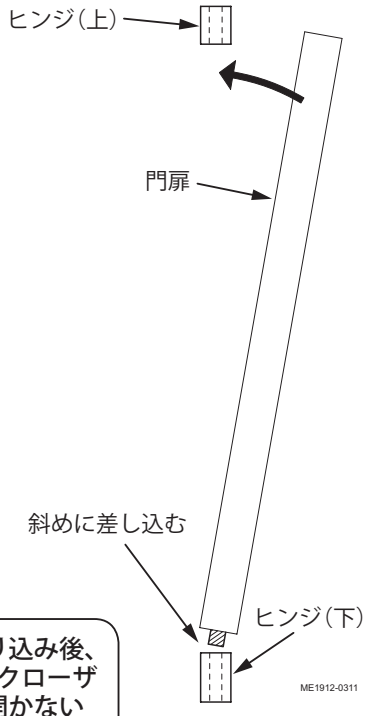
ヒンジピンの締め込みには、マイナスドライバーを使用してください。

門扉上部とヒンジのすき間：5mm
門扉下部～GL間：100mm

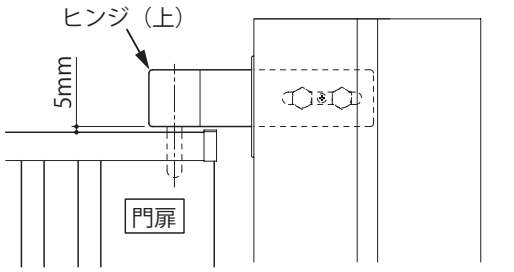
●門扉上部：ヒンジ（上）



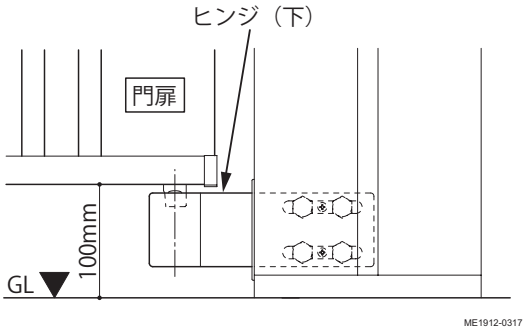
●吊り込みのポイント



●門扉上部とヒンジのすき間



●門扉下部とGL間



オートクローザ付き門扉は、吊り込み後、「3-3. ヒンジの調整」、「4. オートクローザの調整」が完了するまで門扉を開かないでください。
※オートクローザが破損する場合があります。

3－3 ヒンジの調整

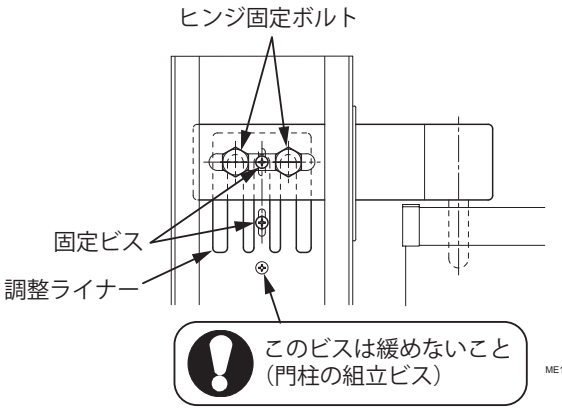
調整中に門扉本体が倒れないように注意してください。

①必要に応じて、ヒンジ位置を調整してください。

両開きの場合は、左右を均等に調整してください。

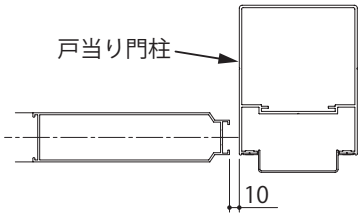
門柱の組立ビスは絶対に緩めないでください。
裏板が外れて、ボルトが取付けられなくなります。

●調整ボルト・ビス

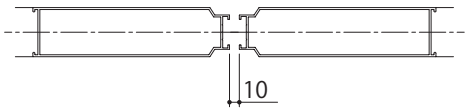


戸先側チリ寸法：10mm に調整

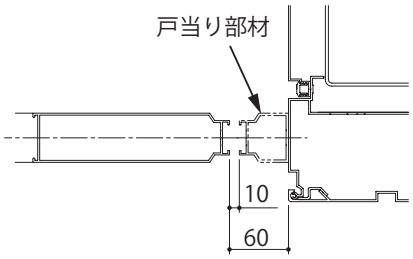
●標準門柱：片開き



●標準・デラックス門柱：両開き

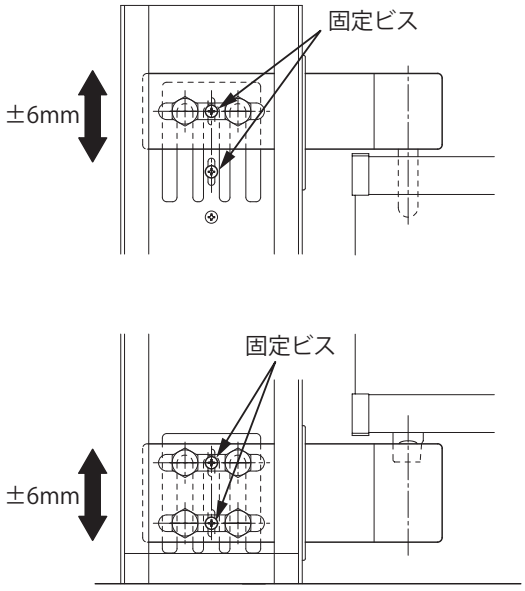


●デラックス門柱：通用門付両開き



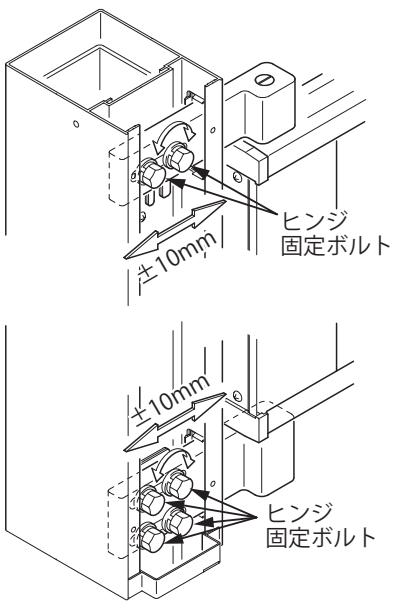
上下調整

●門柱の固定ビスを緩めて調整してください。



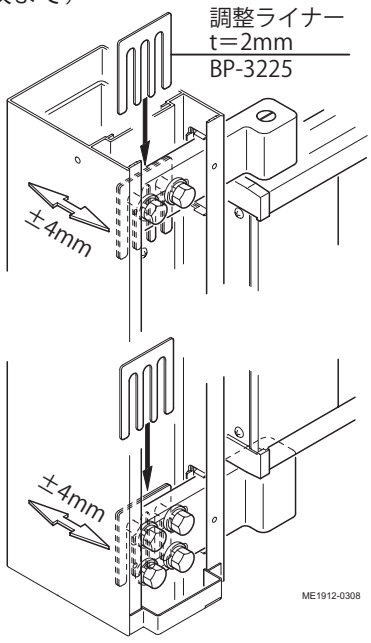
左右調整

●ヒンジの固定ボルトを緩めて調整してください。



前後調整

●調整ライナーを使用して調整してください。（標準 2 枚、最大 4 枚まで）



※本図は、標準門柱の場合を示しています。
※デラックス門柱の場合も同様に調整してください。

調整後は、各ボルト・ビスを確実に締付けてください。

4 オートクローザの調整（電気錠タイプ）

●電気錠タイプの施錠扉には、オートクローザが取付けられています。（標準錠タイプにははありません。）
●本図は、「右勝手」の場合を示しています。

4－1 調整前の確認

●本商品のオートクローザは、門扉の吊り込み後にスプリングの巻き込み作業が必要です。
●ここでは調整にあたっての確認事項を説明しています。
●調整方法は、次ページの「4-2. スプリング調整窓の調整」「4-3. 速度調整窓の調整」を参照してください。

オートクローザの調整窓は、施錠扉の吊元・家側にあります。

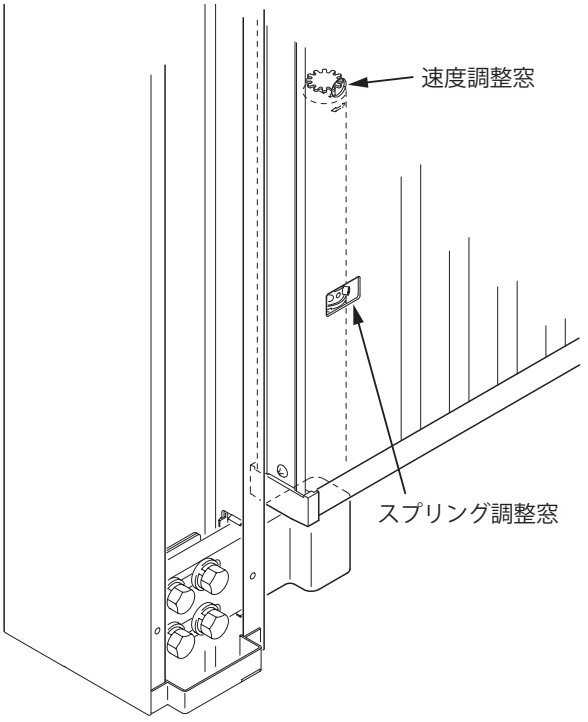
●雨水などがかからない状態で調整してください。
●門扉を閉じた状態で調整してください。
●調整が完了するまで門扉を開かないでください。
●門扉は 180° 以上開きませんが、オートクローザは 180° 以上門扉を開くと破損する場合があります。
●自動で閉じかけている門扉を、無理に手で閉じないでください。破損の原因となります。

●巻き込み過ぎ防止マーク以上を巻き込まないでください。
●反対方向に巻き込まないでください。
●開き角度が小さい場合、商品の特性上、閉じる速度が速くなる場合があります。

調整に使用する工具は、門扉内に梱包されています。

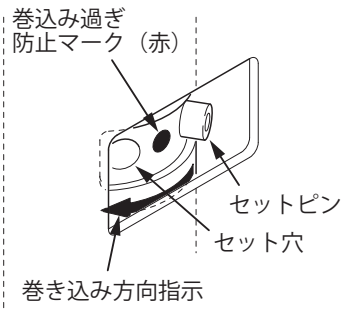
●調整窓の確認

※本図は、門扉 C 型の場合を示しています。

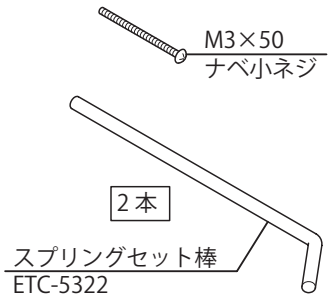


ME1912-0401

●巻き込み装置名称



●付属工具



ME1912-0407

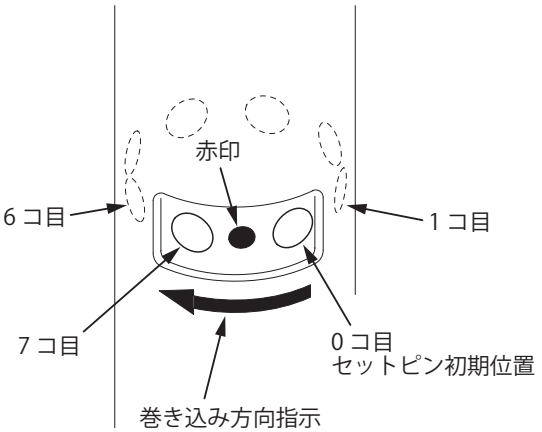
下表を参照して、セットピンを差し込む穴を確認してください。

●セットピンを差し込む穴（目安）

門扉サイズ	セットピンを差し込む穴
W10	6 コ目
W12	6 コ目
W14	7 コ目
W16	7 コ目

左勝手の場合は、セット穴の並びと巻き込み方向が左右対称になります。

●セットピンを差し込む穴



ME1912-0405

4－2 スプリング調整窓の調整

調整が完了するまで、セット棒を抜かないでください。
※途中でセット棒を抜くと、スプリングが巻き戻ります。

①セット穴にセット棒 A を差し込んでください。

②セットピンにネジをねじ込んでください。

③セットピンを抜いてください。

④セット棒 B をセット穴に差し込んでください。

⑤セット棒 A を抜いてください。

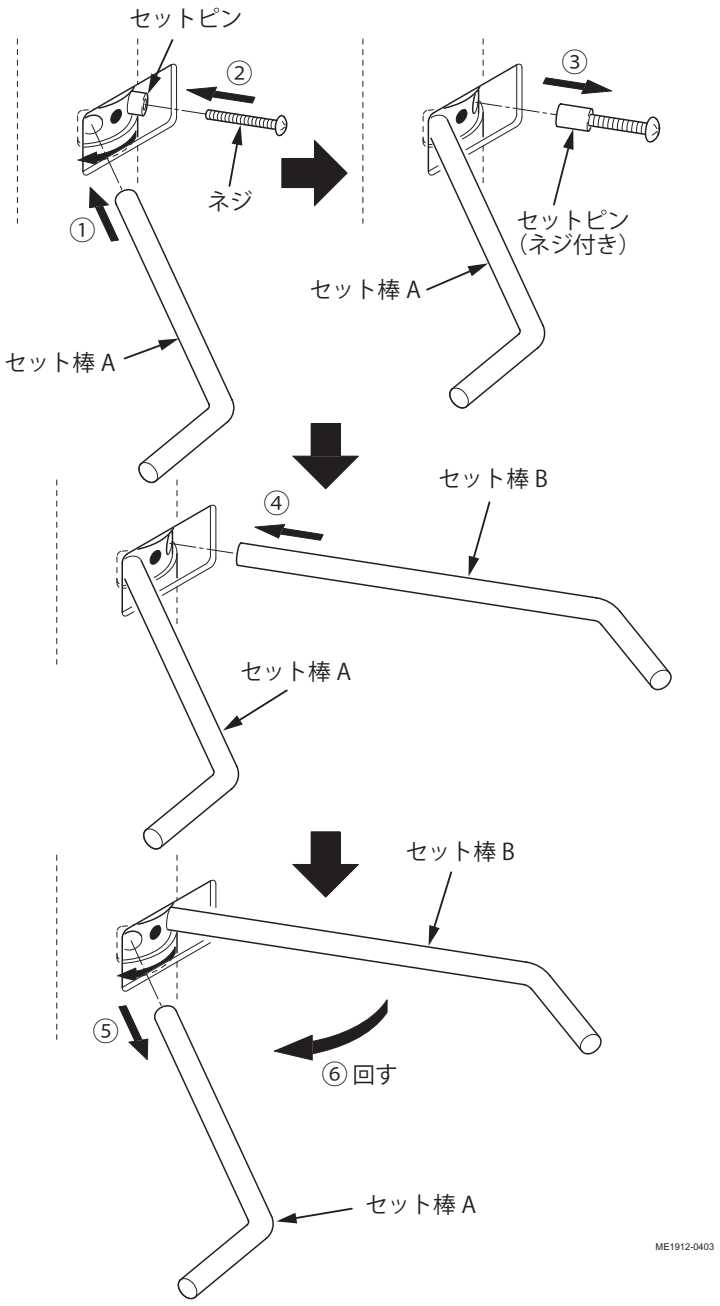
⑥セット棒 B を「左」に回してください。

⑦「手順④～⑥」を繰り返し、前ページの「セットピンを差し込む穴」が調整窓から見えるまで、巻き込み装置を回してください。

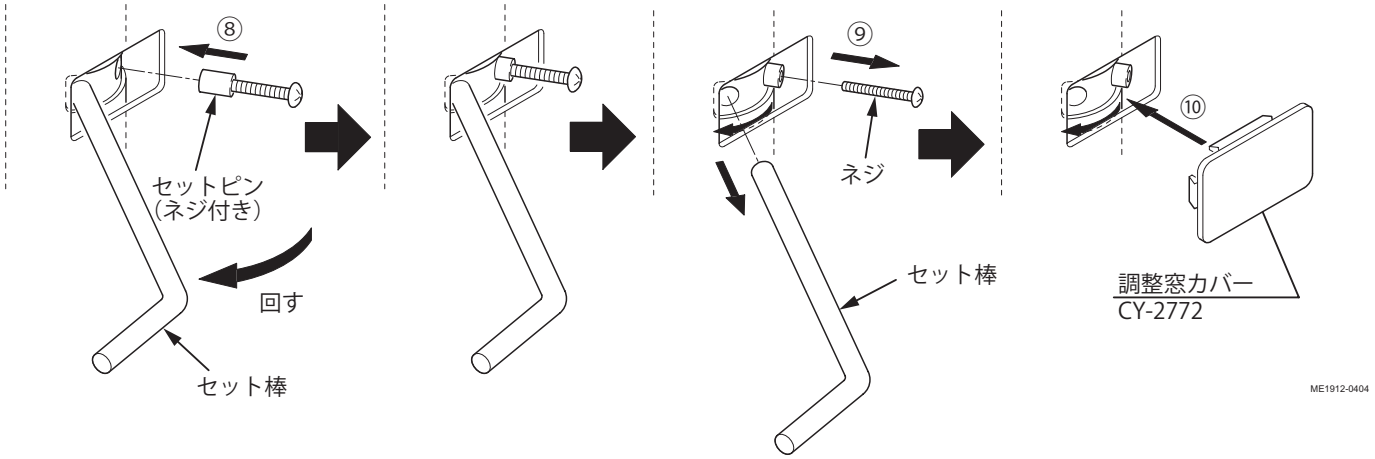
⑧「セットピンを差し込む穴」に、セットピンを再び取付けてください。

⑨セットピンのネジを取外し、セット棒を抜いてください。

⑩調整窓カバーを取付けてください。



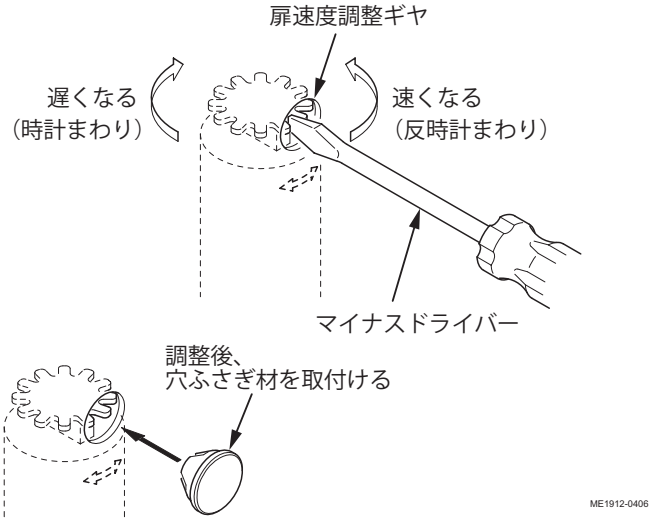
調整後は、調整窓カバーを確実に取付けてください。
※雨水の浸入等でオートクローザが作動しなくなる場合があります。



4－3 速度調整窓の調整

①マイナスドライバーを使用して、速度調整窓の扉速度調整ギヤを調整してください。

速度の調整
・速くする：ギヤを「反時計まわり」にまわす
・遅くする：ギヤを「時計まわり」にまわす



②調整後、速度調整窓に穴ふさぎ材を取付けてください。

門扉の取替え、調整等で門扉を取外す場合は、逆の作業を行って、必ずスプリングの巻き込みを元に戻してください。

4－4 トラブルQ＆A

●万が一「オートクローザ」の動作に不具合が発生した場合、下記項目をご確認ください。

症　　状	チェック項目	処　　置
扉が閉まり切らない。	スプリングを巻き込みましたか？	所定巻数に設定してください。(門扉幅に合わせて設定する。)
	上部ヒンジと下部ヒンジとの軸芯はでていますか？	ヒンジを調整し、軸芯ズレを解消してください。
	門扉と柱、門扉と門柱のチリ寸法は正しいですか？	ヒンジを調整し、チリ寸法を合わせてください。
	速度調整が遅すぎませんか？	速度調整で F 方向 (速くなる) へ調整してください。
	風が強くありませんか？	所定巻数よりも若干スプリングの巻数を増やしてください。
閉じ速度が早い。	速度調整をしましたか？	速度調整で S 方向 (遅くなる) へ調整してください。
扉が開いていく。	スプリングを逆に巻き込んでいませんか？	スプリングを正規方向に巻き直してください。
扉開閉時、きしみ音がする。	ヒンジ取付ビス等は緩んでいませんか？	ヒンジ取付ビスの増し締めをしてください。

5 結線ボックスの取付け（電気錠タイプ）

●各電装品の取付位置は、「配線図」を参照してください。
●錠本体の取付けについては、PK 型錠（標準錠）・EL 型錠（電気錠）の施工説明書 [ME-1920] を参照してください。

5－1 結線ボックスの取付け（標準門柱の場合）

「配線図」を参照して、取付位置を確認してください。

①結線ボックスの部品を取外してください。

②門柱に部品を取外した結線ボックスを取付けてください。

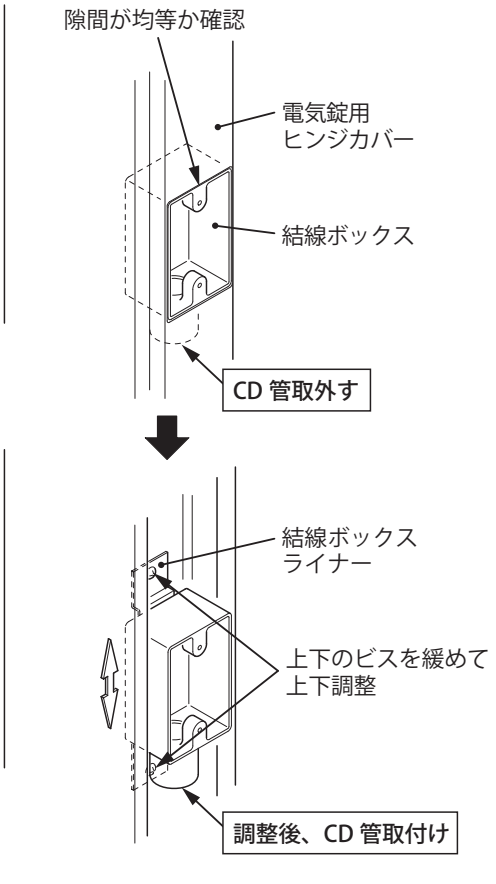
結線は電気工事店様（有資格者）が行ってください。

取付および結線についての詳細は、PK 型錠（標準錠）・EL 型錠（電気錠）の施工説明書 [ME-1920] を合わせて参照してください。

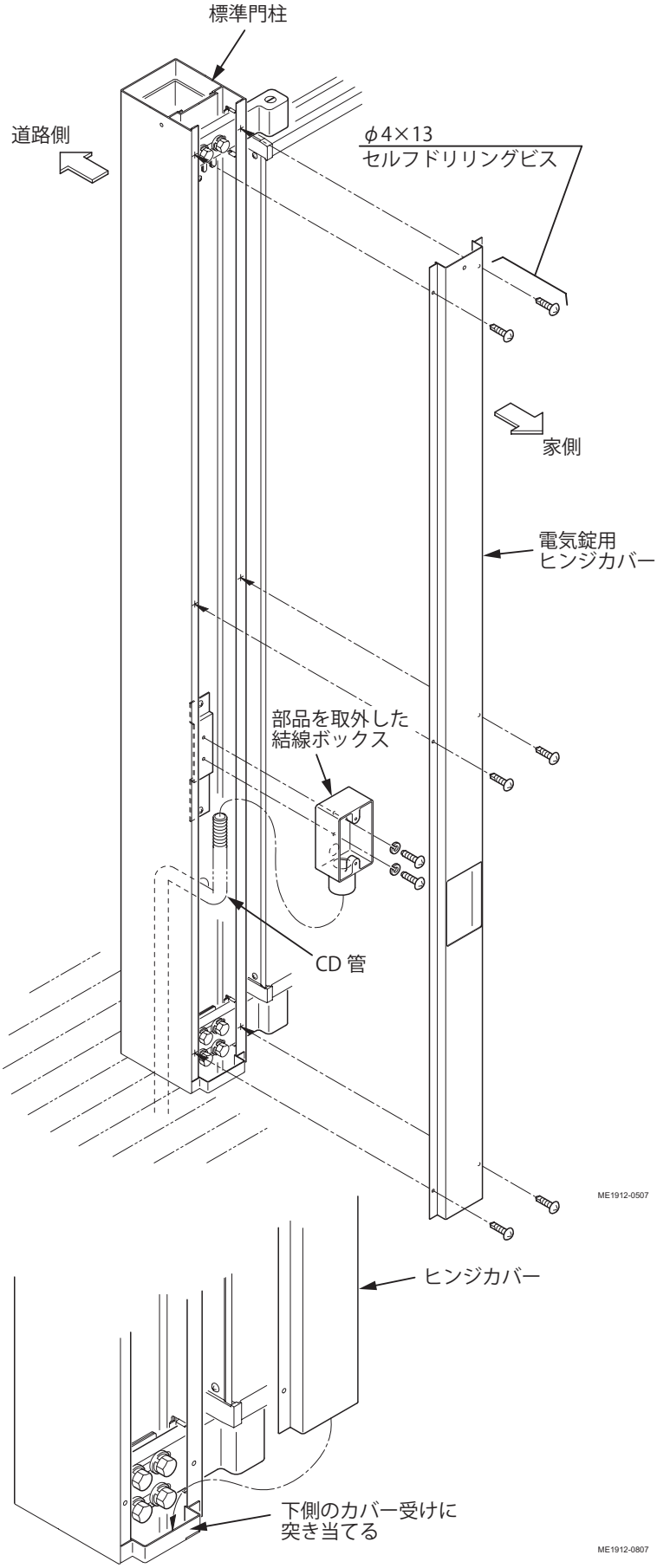
③門柱に電気錠用ヒンジカバーを取付けてください。

結線ボックスが電気錠用ヒンジカバーの穴に納まらない場合は、下図を参照して結線ボックスの位置を調整してください。

●結線ボックスの位置調整

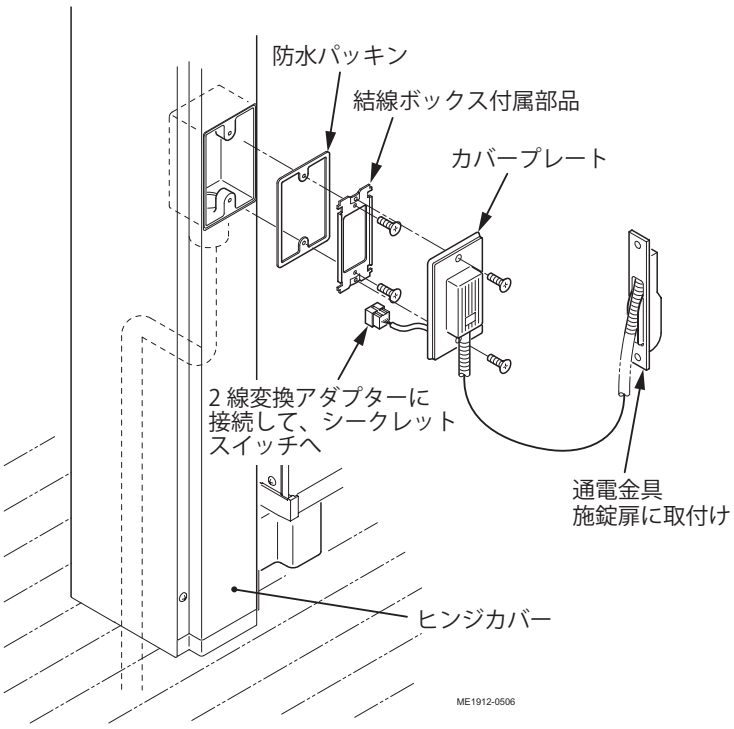


ME1912-0512



ME1912-0507
ME1912-0807

④ [ME-1920] を参照して、2 線変換アダプター・コネクターを接続してください。



5 − 2 結線ボックスの取付け（デラックス門柱の場合）

「配線図」を参照して、取付位置を確認してください。

①門柱の後パネルを開けてください。

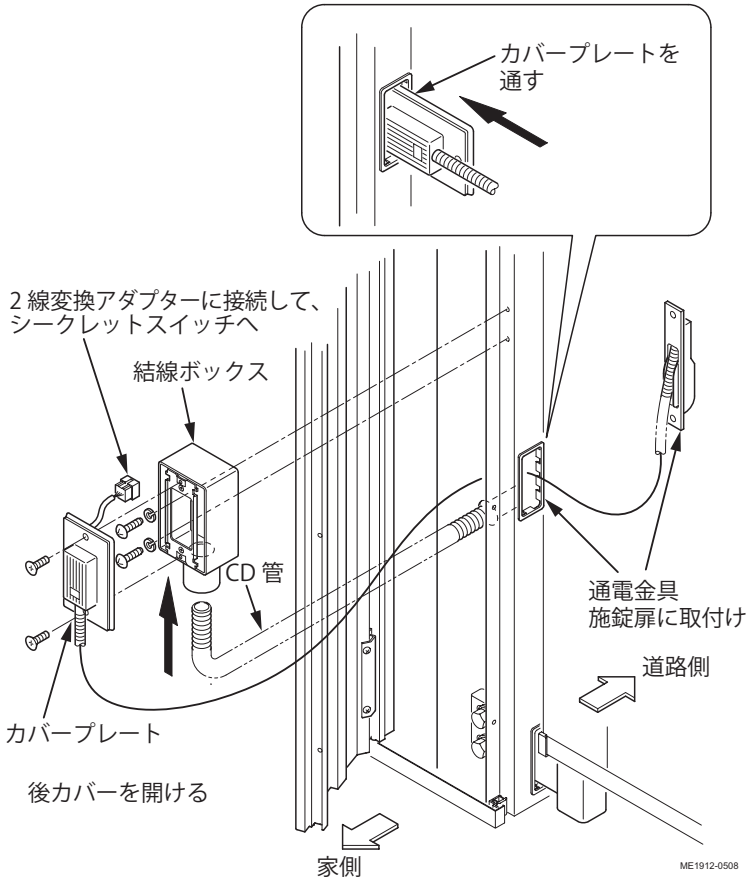
開けかたは 16 ページを参照してください。

②門柱に結線ボックスを取付けてください。

③図を参照して、門柱の穴からカバープレートを通してください。

④ [ME-1920] を参照して、2 線変換アダプター・コネクターを接続してください。

結線は電気工事店様（有資格者）が行ってください。



5－3 通電金具の取付け

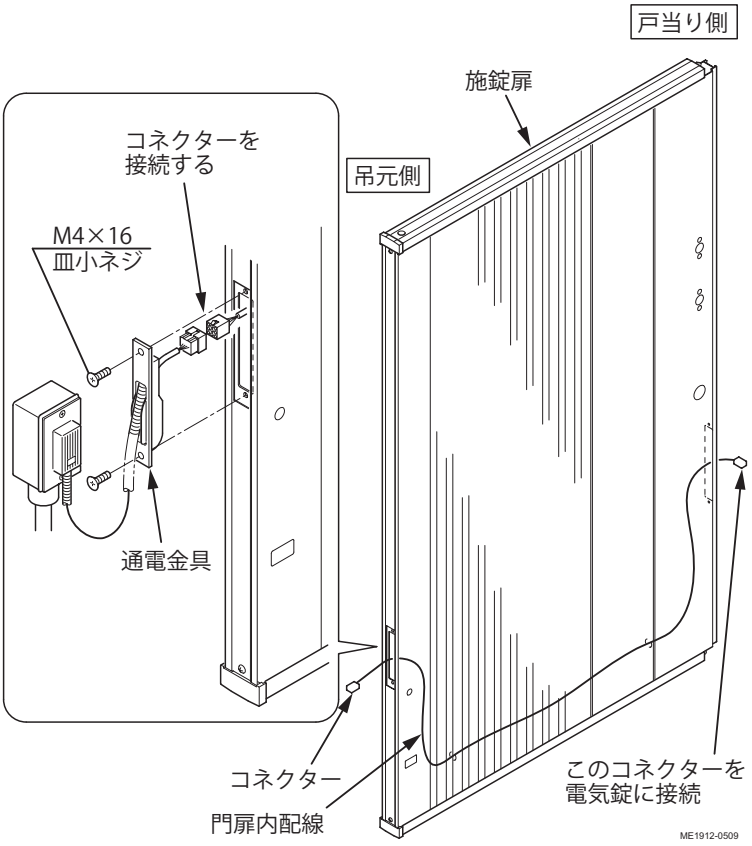
「配線図」を参照して、取付位置を確認してください。

①門扉内配線のコネクターと通電金具のコネクターを接続してください。

結線は電気工事店様（有資格者）が行ってください。

②施錠扉に通電金具を取付けてください。

取付および結線についての詳細は、PK 型錠（標準錠）・EL 型錠（電気錠）の施工説明書 [ME-1920] を参照してください。



6 錠の取付け

●錠本体の取付けについては、PK 型錠（標準錠）・EL 型錠（電気錠）の施工説明書 [ME-1920] を参照してください。

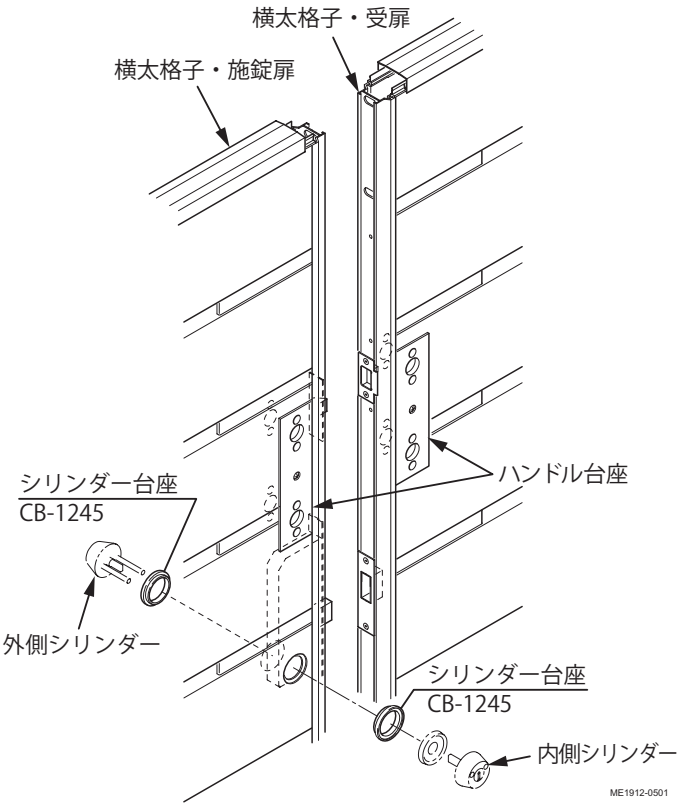
●取付方法は、[ME-1920] を参照してください。
●門扉 B 型（横太格子）の場合は、次の「6-1. 台座の取付け」を参照して台座を取付けてください。
●戸当り門柱の場合は、下の「6-2. 錠の取付け」を参照して箱受け・受けフロントを取付けてください。
●デラックス門柱・通用門付両開きの場合は、次ページの「6-3. 戸当り部材の取付け」を参照して、戸当り部材を取付けてください。

6－1 台座の取付け（※B型門扉の場合）

B 型門扉（横太格子）の場合は、錠の取付前に台座を取付けてください。

①施錠扉にシリンダー台座を取付けてください。

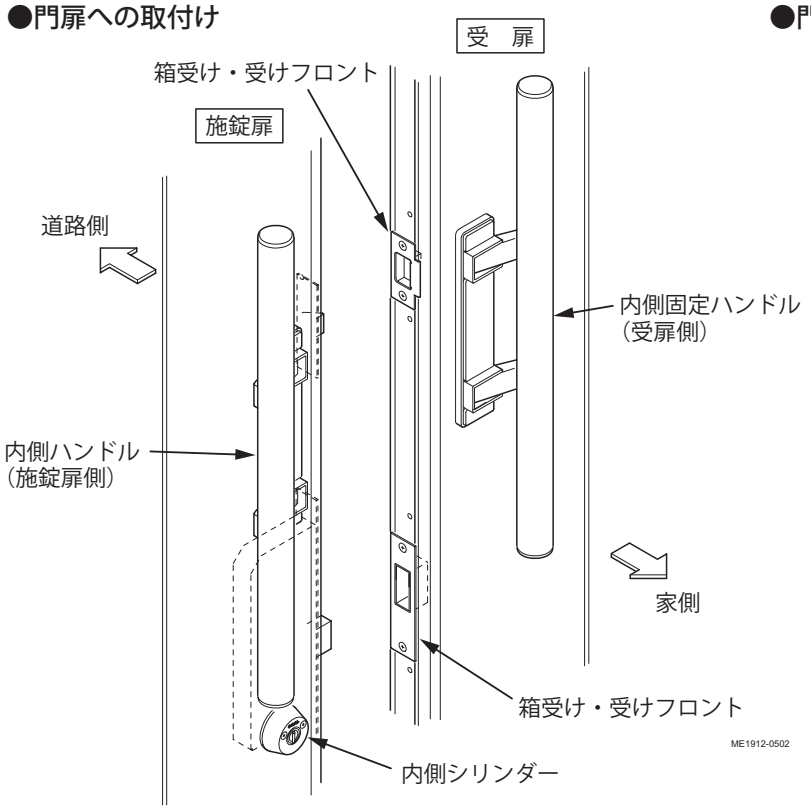
②シリンダー台座にシリンダーを取付けてください。



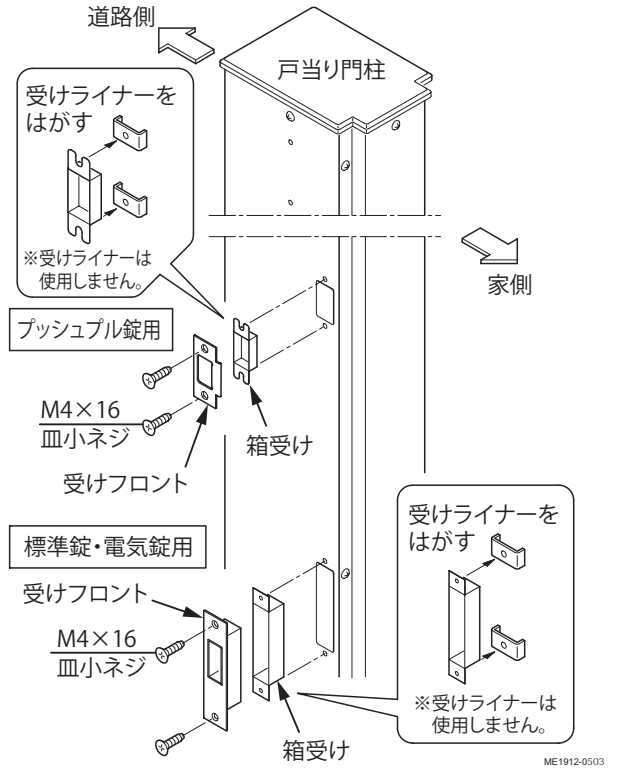
6－2 錠の取付け

① [ME-1920] を参照して、門扉に錠を取付けてください。

●門扉への取付け



●門柱への取付け

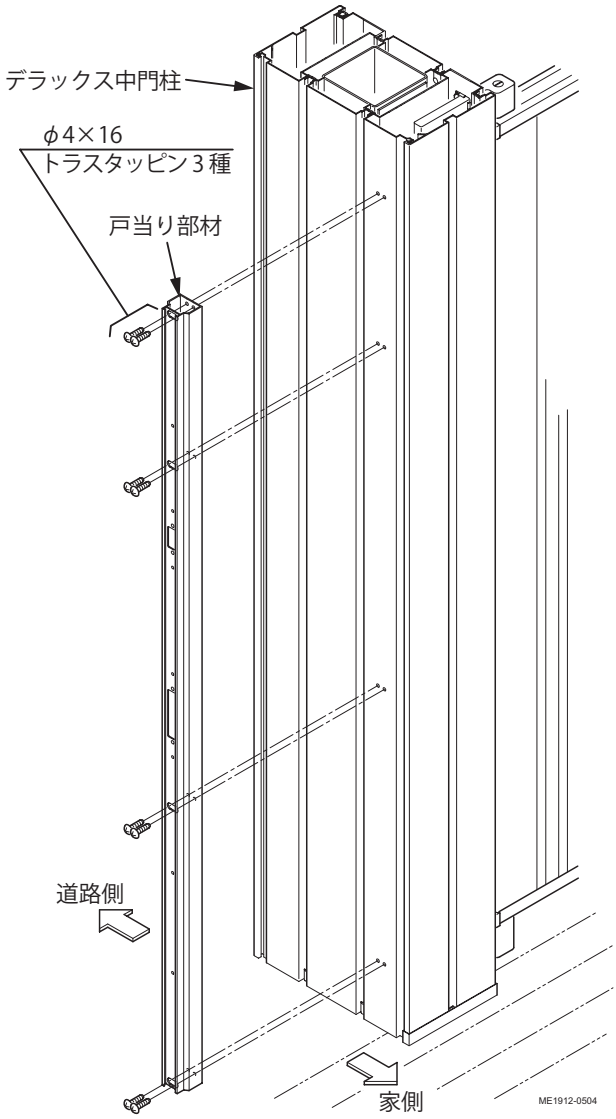


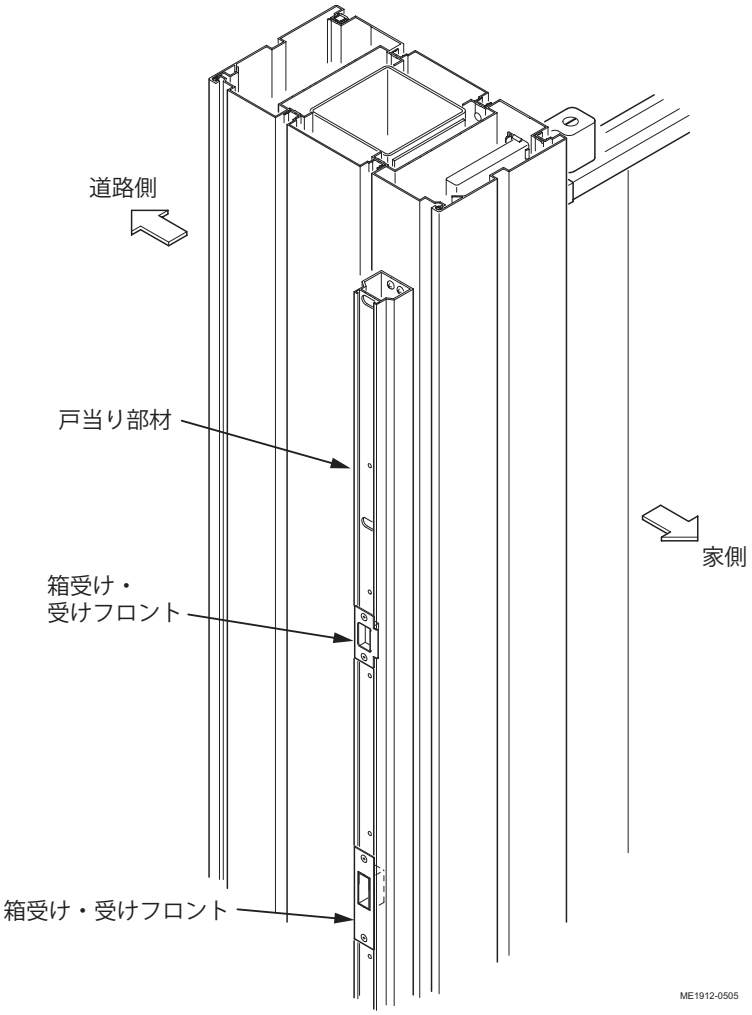
6－3 戸当り部材の取付け（※デラックス門柱・通用門付両開きの場合）

デラックス門柱･通用門付両開きの場合は、デラックス中門柱の戸当り部材に錠受けを取付ます。

①中門柱に戸当り部材を取付けてください。

②戸当り部材に錠受けを取付けてください。





7 戸当り・召合縦框キャップの取付け

●本図は「右勝手・内開き」の場合を示しています。

戸当りを取付けると、チリ寸法や錠の掛かりが見えなくなります。取付の前に確認をしてください。
戸先側チリ寸法：10mm

7－1 門扉への取付け

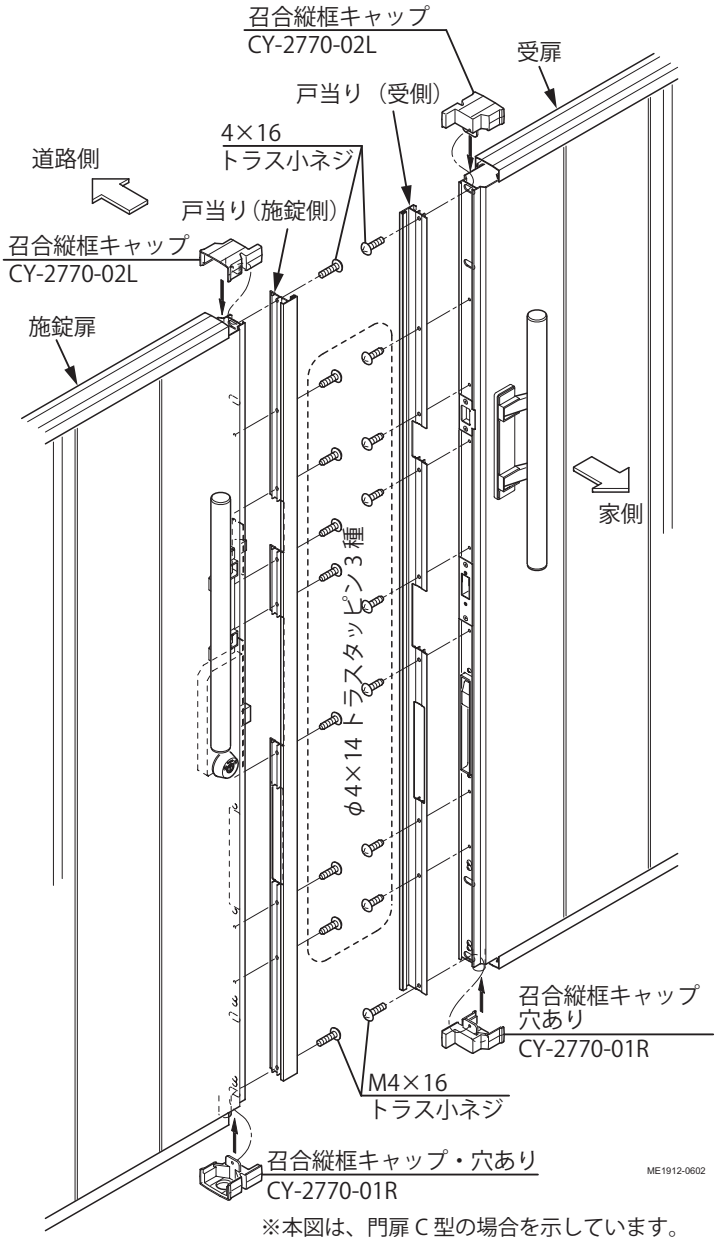
①納まり図で門扉の施錠扉側と受扉側を確認してください。

②門扉に戸当りを取付けてください。

施錠扉側・受扉側を間違えないようにしてください。

③門扉の上下に、召合縦框キャップを取付けてください。

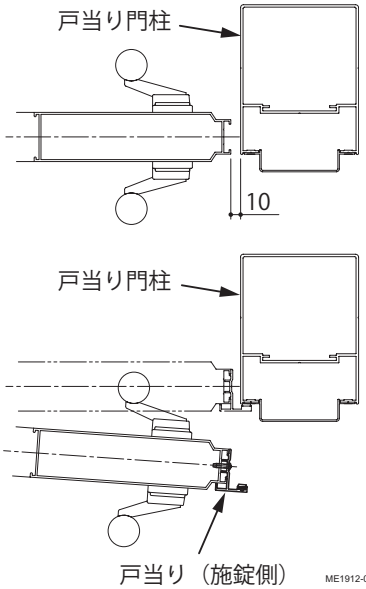
召合縦框キャップには左右があります。
※右図で確認してください。また、門扉下部へは「穴あり」を取付けてください。



ME1912-0602

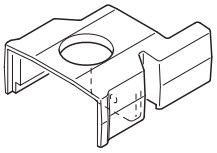
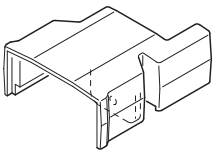
※本図は、門扉C型の場合を示しています。

●片開き



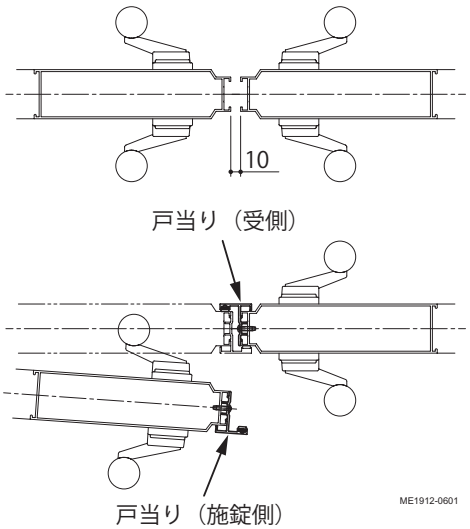
ME1912-0603

●召合縦框キャップ

CY-2770-01
穴あり 
CY-2770-02
穴なし 

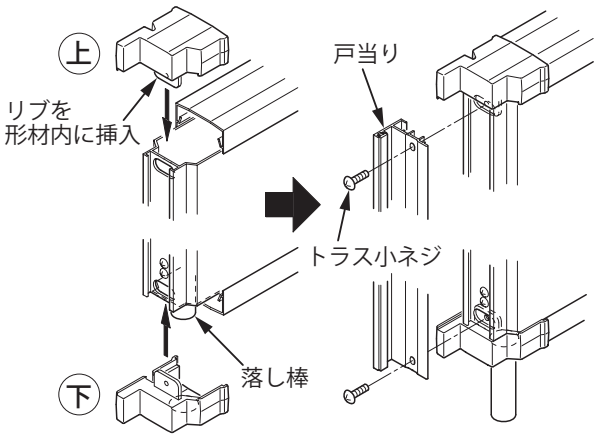
※R・Lがあります。 ME1912-0605

●両開き



ME1912-0601

●召合縦框キャップの取付詳細



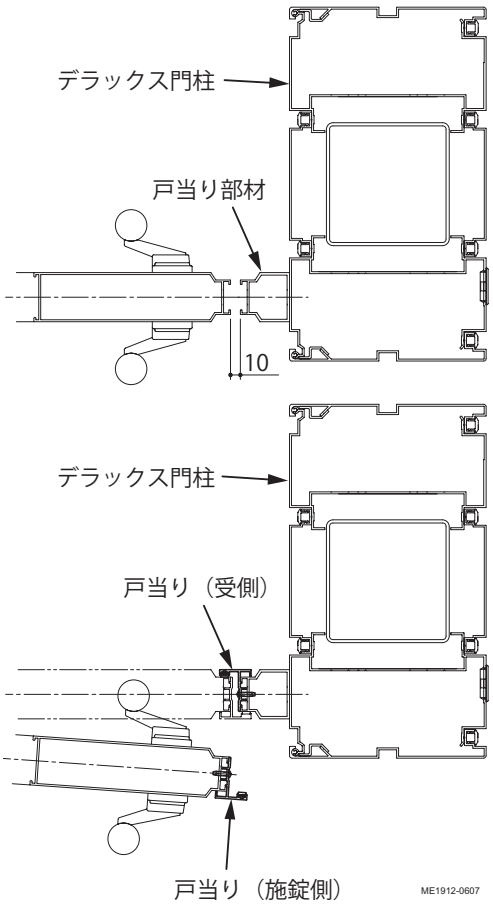
ME1912-0606

7－2 門柱への取付け（※デラックス門柱・通用門付両開きの場合）

デラックス門柱・通用門付両開きの場合に行ってください。

①戸当り部材に戸当りを取付けてください。

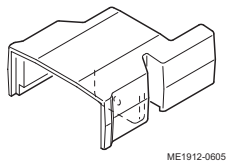
●通用門付両開き

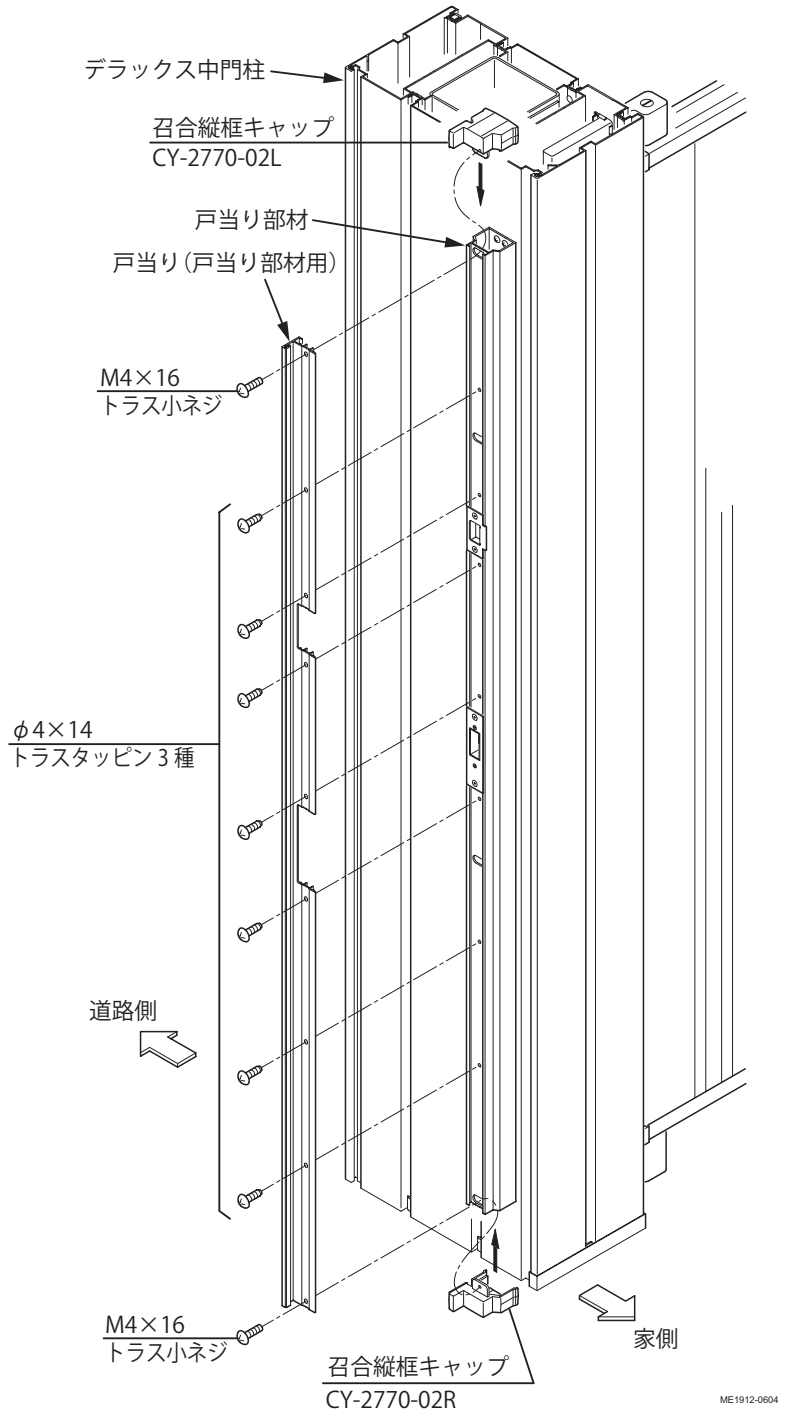


②戸当りの上下に、召合縦框キャップを取付けてください。

召合縦框キャップは上下とも「穴なし」を取付けてください。
※取付詳細は、前ページの「7-1. 門扉への取付け」を参照してください。

●召合縦框キャップ

CY-2770-02
穴なし  ME1912-0605



8 電装品の取付け（電気錠タイプ）

●各電装品の取付位置は、「配線図」を参照してください。

8－1 門内解錠スイッチの取付け（※デラックス門柱の場合）

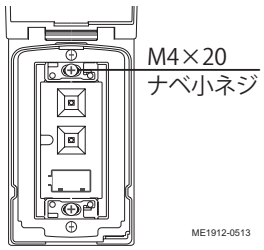
「配線図」を参照して、取付位置を確認してください。

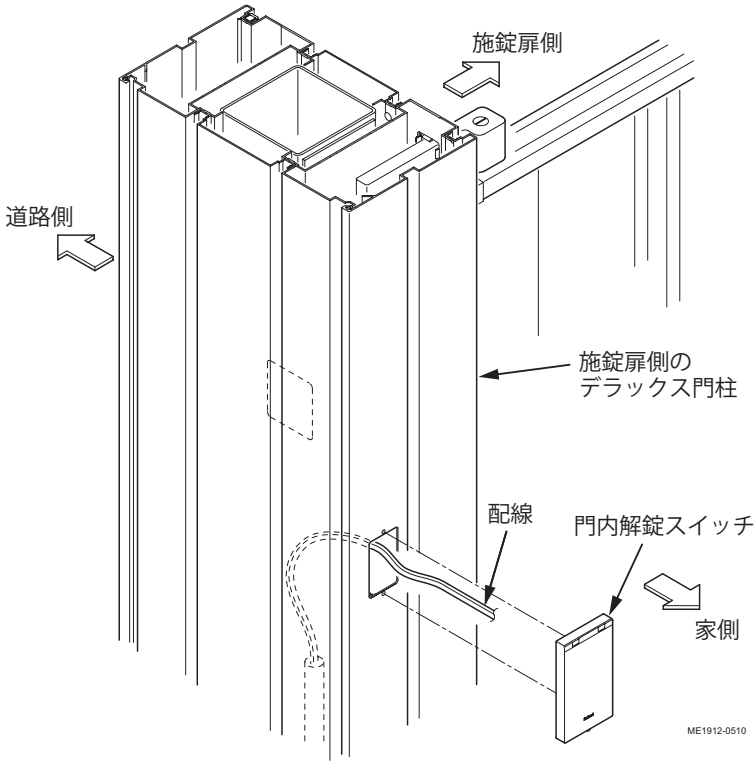
①門内解錠スイッチを結線し、門柱に取付けてください。

結線は、電気工事店様（有資格者）が行ってください。

取付および結線についての詳細は、電気錠操作器に付属の施工説明書および「電気錠システム シンプルプラン」の取付・取扱説明書 [MET-1053] を合わせて参照してください。

●スイッチの取付け





※本図は、デラックス門柱の場合を示しています。

8－2 シークレットスイッチの取付け（※デラックス門柱の場合）

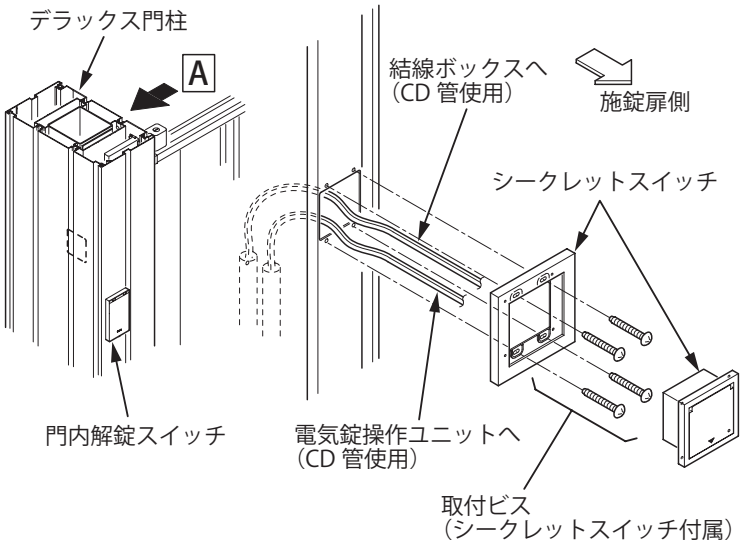
「配線図」を参照して、取付位置を確認してください。

①シークレットスイッチを結線し、門柱に取付けてください。

結線は、電気工事店様（有資格者）が行ってください。

取付および結線についての詳細は、電気錠操作器およびシークレットスイッチに付属の施工説明書を参照してください。

●Aから見る



※本図は、デラックス門柱の場合を示しています。

ME1912-0511

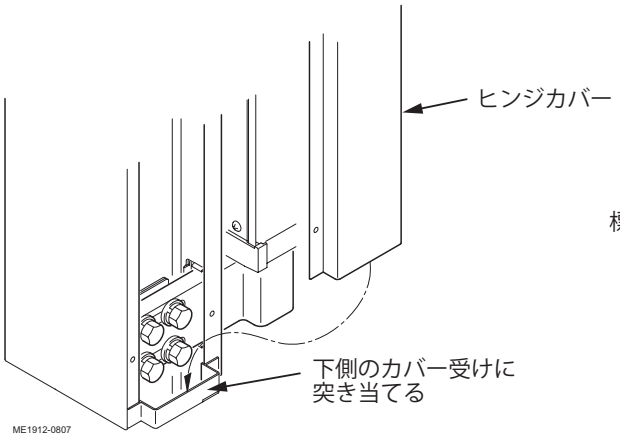
9 門柱部品の取付け

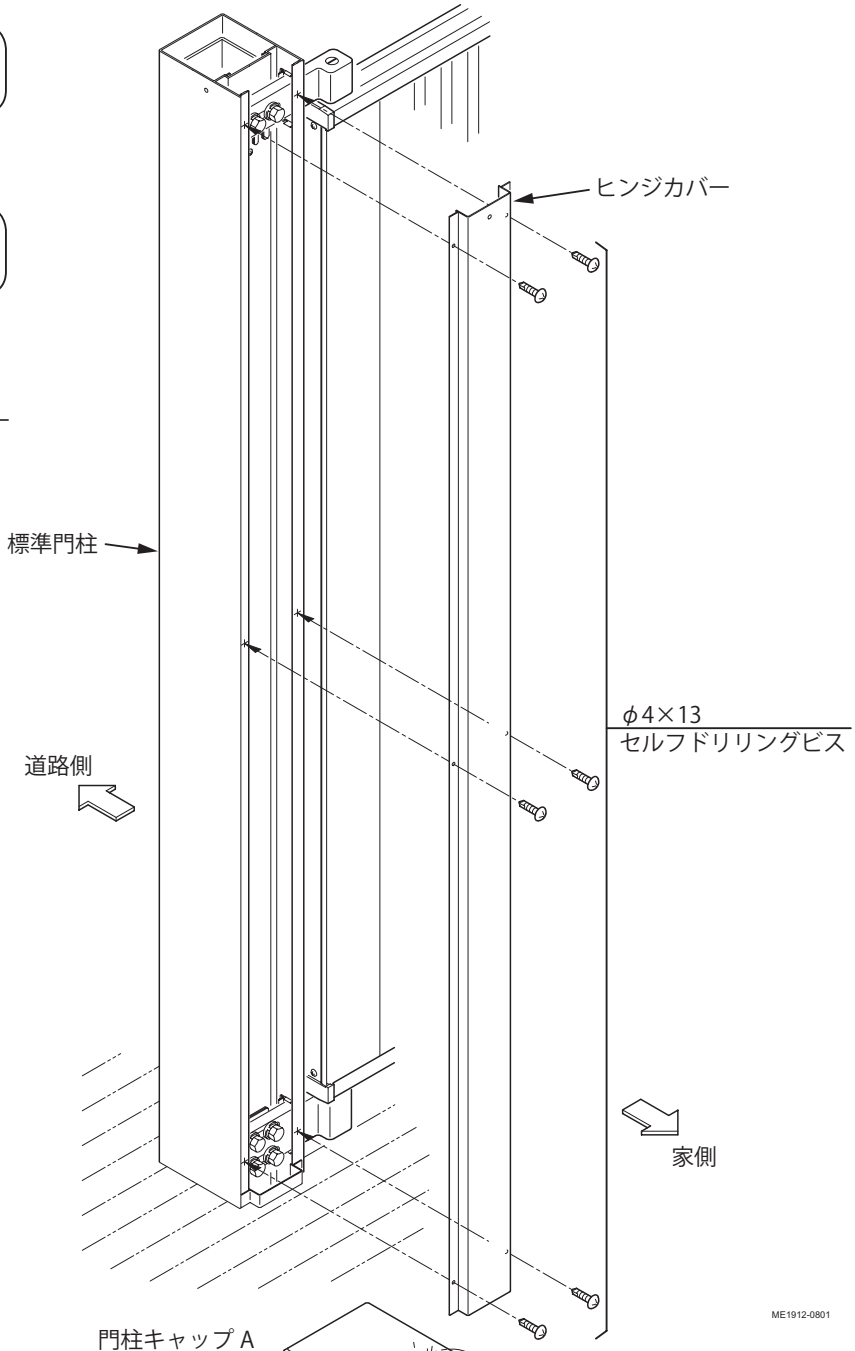
9－1 ヒンジカバー・門柱キャップの取付け（※標準門柱・標準錠タイプの場合）

戸当り門柱にはヒンジカバーが取付けられていますので、この作業は不要です。

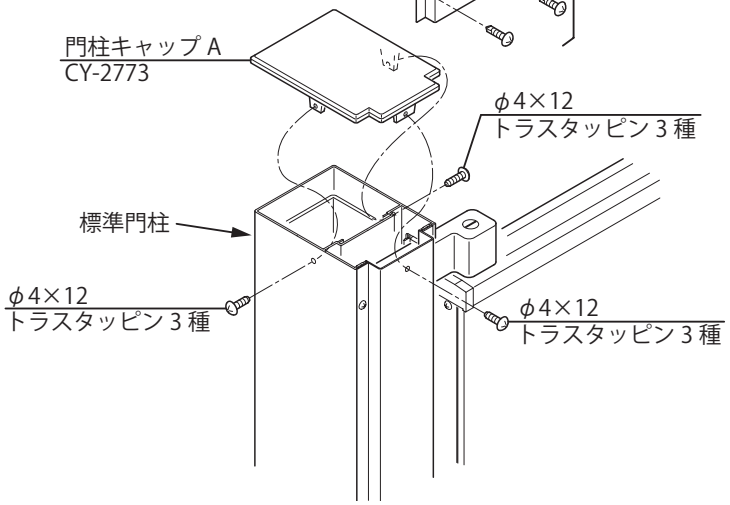
①吊元門柱にヒンジカバーを取付けてください。

下部のカバー受けにヒンジカバーを突き当ててください。





②門柱に門柱キャップを取付けてください。

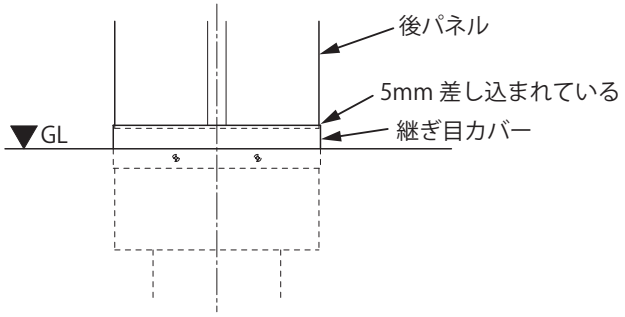


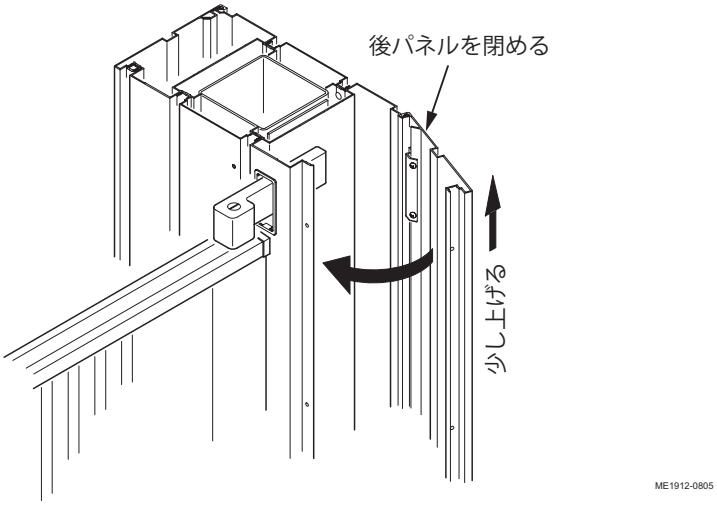
9－2 門柱キャップの取付け（※デラックス門柱の場合）

①門柱の後パネルを閉めてください。

後パネルを持ち上げながら閉め、下部を継ぎ目カバーに差し込んでください。

●後パネル下部

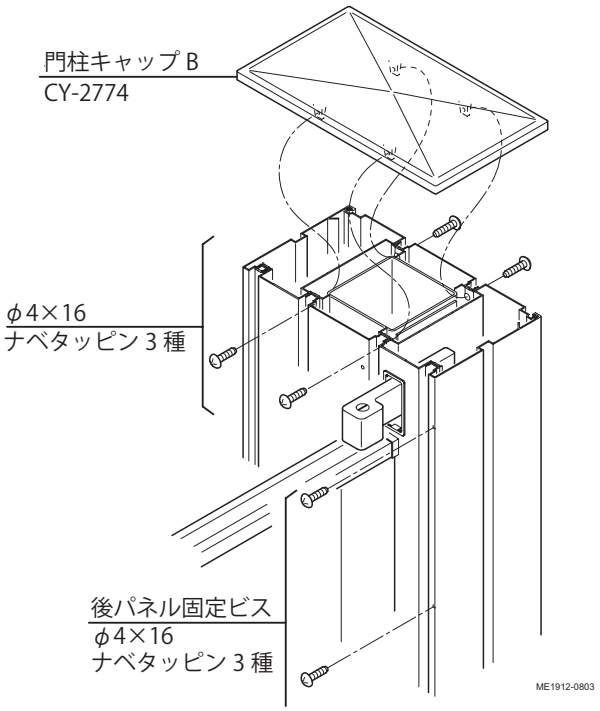




②門柱に門柱キャップを取付けてください。

③門柱に後パネル固定ビスを取付けてください。

「1-2. デラックス門柱の場合」で取外したビスを使用してください。

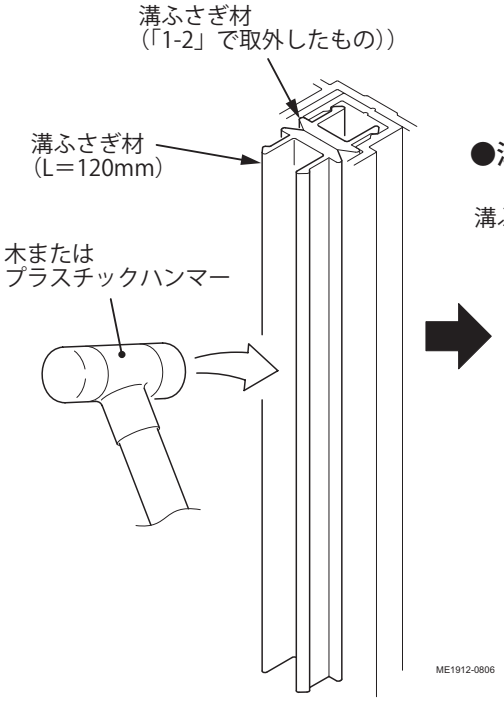


9－3 溝ふさぎ材の取付け（※デラックス門柱の場合）

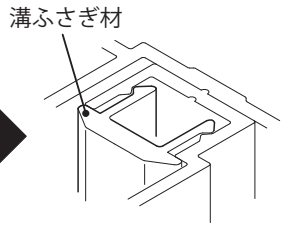
「1-2. デラックス門柱の場合」で取外した溝ふさぎ材を使用してください。

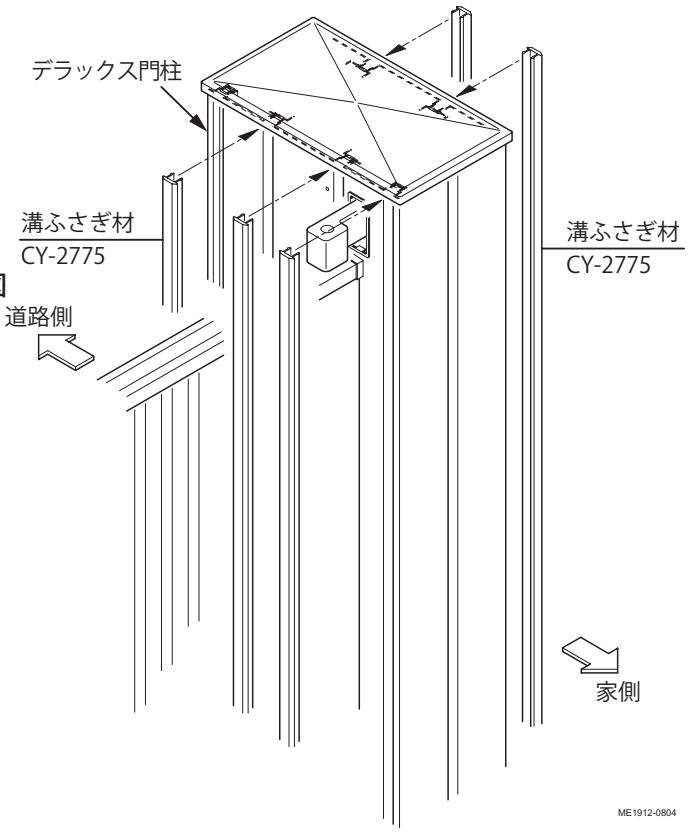
①下図を参照して門柱に溝ふさぎ材を取付けてください。

溝ふさぎ材（L ＝ 120）を、取付ける溝ふさぎ材にあて、ハンマーを使って門柱の溝にたたき込んでください。



●溝ふさぎ材取付断面図





10 開き止めバンパーの取付け

開き止めバンパーは、施錠扉側・受扉側の両方に取付けてください。
※開き止めバンパーを取付けずに門扉を 180° 以上開くとオートクローザが破損する場合があります。

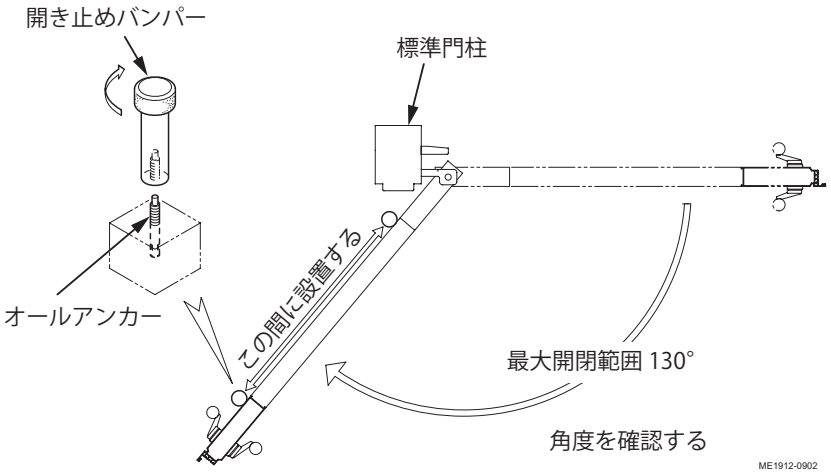
最大開閉範囲以上に門扉を開かないでください。
・標準門柱　　：130°
・デラックス門柱：110°
※最大開閉範囲を超えると、門扉と門柱がぶつかって破損する恐れがあります。

①門扉の最大開閉範囲を確認し、通行などを妨げない任意の場所に、開き止めバンパーを取付けてください。

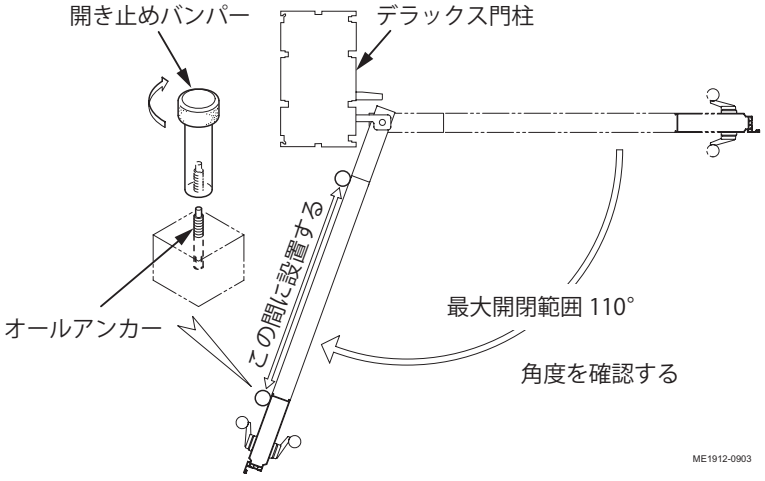
⚠注意

GL より 120mm 突出しますので、つまずいたりしない場所に設置してください。

●標準門柱



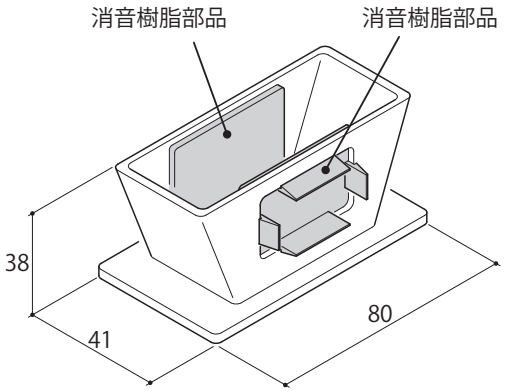
●デラックス門柱



11 落し受けツボの埋め込み

●落し錠は出荷時に門扉に取付けられています。

落し受けツボには、右図の位置に消音樹脂部品がはめ込まれていますので、そのまま埋め込んでください。

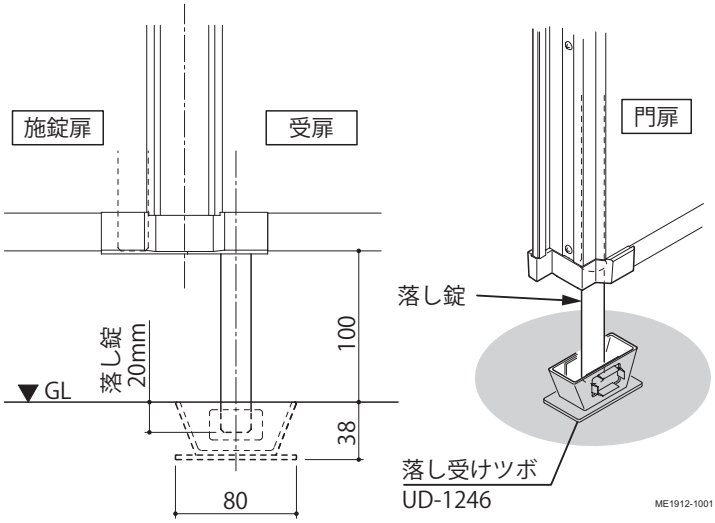


ME1912-1005-1

①門扉を閉じたときの落し錠の下に、落し受けツボを埋め込んでください。

門扉を閉じたとき：
門扉を閉じて、「受扉側のみ」に落し受けツボを埋め込んでください。

●落し受けツボの埋め込み

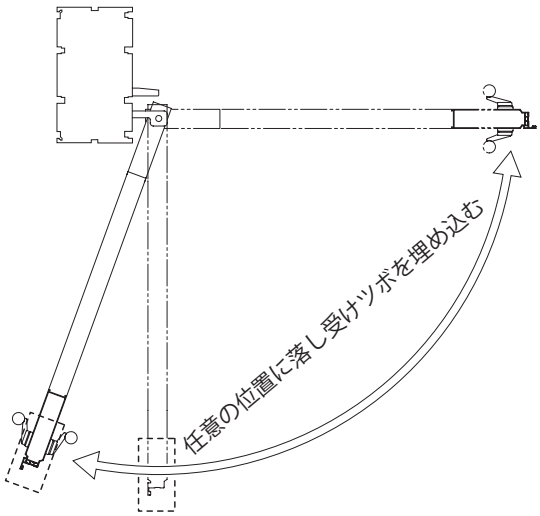


ME1912-1001

②門扉を開いたときの任意の位置に、落し受けツボを埋め込んでください。

門扉を開いたとき：
施錠扉・受扉の両方とも開いて、「施錠扉側・受扉側の両方」に落し受けツボを埋め込んでください。

●門扉を開いたときの落し受けツボ位置



ME1912-1004

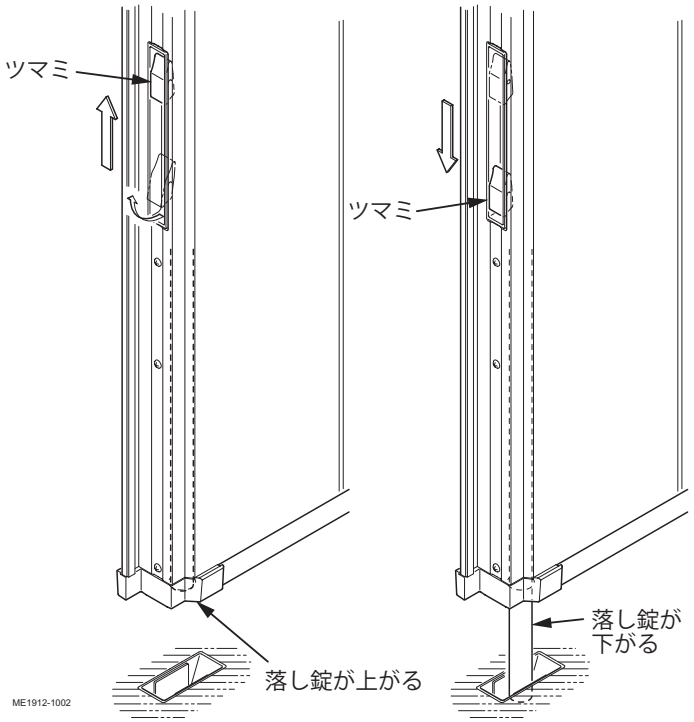
12 落し錠の動作確認

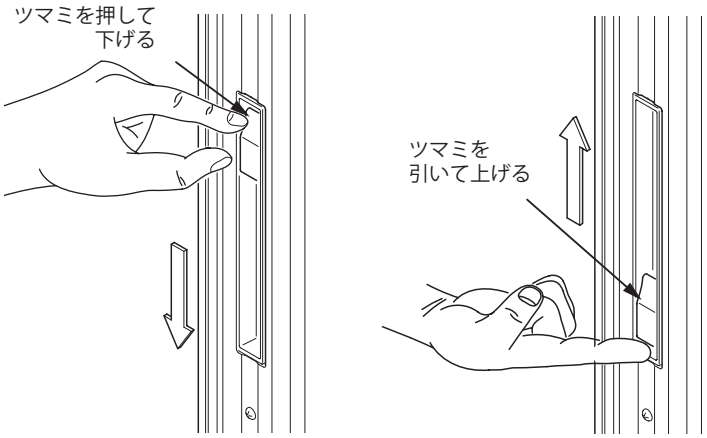
●落し錠は出荷時に門扉に取付けられています。

①門扉（受扉側）の落し錠のツマミを上下にスライドさせて、落し錠が落し受けツボに正しくかかることを確認してください。

ツマミを上げる：落し錠が上がる
ツマミを下げる：落し錠が下がる

施錠扉は、門扉を閉じたときに落し錠を施錠することはできません。





■施工工事店様、販売店様へのお願い

●「取扱説明書」に基づき（同梱されているもののみ）商品の使用方法、保守点検方法およびメンテナンス方法を必ず施主様に説明してください。
●この施工説明書は、施工完了後施主様にお渡しください。

施工完了日	年　　月　　日
施工工事店	TEL（　　）　　-
販売店	TEL（　　）　　-

株式会社LIXIL この商品についてのご質問やご相談は右記の窓口にお問い合せください。 **お客様相談センター** 0120-126-001